



WHITE PAPER ON FEMINIST INTERNET RESEARCH

Sachini Perera

フェミニスト インターネット リサーチ白書

Sachini Perera

フェミニスト・インターネット・リサーチ白書

著者

Sachini Perera

査読者

Namita Aavriti, Tigist Shewarega Hussien, Neema Iyer,
Anja Kovacs, Débora Prado and Ruhiya Seward

コピー編集

Lynne Stuart (Idea in a Forest)

校正

Lori Nordstrom (APC)

Layout and design

Cathy Chen (APC)

発行：APC 2022年

クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際版 (CC BY 4.0)

<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/>

ISBN 978-92-95113-49-7

APC-202203-WRP-R-EN-DIGITAL-339

本報告書は、国際開発研究センター（IDRC）の委託により、一連の白書の一部として作成されたものである。この白書は、IDRC やその他の資金提供者の支援を受け、Association for Progressive Communications Women's Rights Programme が主導する Feminist Internet Research Network（FIRN）イニシアチブにも関連している。



本研究は、国際開発研究センター（カナダ、オタワ）の助成金を受けて実施されたものである。ここに示された見解は、必ずしも IDRC またはその理事会の見解を表すものではない。

日本語版翻訳 JCA-NET



目次

| | |
|---|----|
| 用語解説 | 5 |
| 頭字語・略語 | 7 |
| 分析のための方法論とダイナミックなリサーチリポジトリ | 8 |
| 調査結果の概要 本白書より | 14 |
| はじめに | 16 |
| フェミニスト・インターネットとは何か? | 17 |
| フェミニストインターネットリサーチとは? | 20 |
| フェミニストインターネットリサーチのテーマ別レビュー | 24 |
| アクセス | 25 |
| アクセスに対するフェミニスト的アプローチとは? | 26 |
| インフラとデザイン | 26 |
| デジタル・ジェンダー・ギャップへの対応 | 27 |
| アクセスから積極的な利用へ | 28 |
| Covid-19がアクセスに与える影響 | 29 |
| 表現 | 31 |
| 表現に対するフェミニスト的アプローチとは何か? | 32 |
| 表現体験 | 32 |
| 表現の犯罪化 | 33 |
| 快楽 | 35 |
| 快楽に対するフェミニスト的アプローチとは何か? | 35 |
| インターネット上の、そしてインターネットを通じた快楽 | 36 |
| インターネット政策の議論における快楽の位置づけ | 36 |
| オンライン GBV | 38 |
| オンライン GBV に対するフェミニスト的アプローチとは何か? | 38 |
| オンライン GBV に対する国家とプラットフォームの対応 | 39 |
| オンライン GBV に対するフェミニストの反応 | 41 |
| 監視 | 42 |
| 監視に対するフェミニスト的アプローチとは? | 43 |
| 監視を打破し抵抗する | 43 |
| COVID-19と監視 | 43 |
| 監視とケア、プライバシー、検閲、セキュリティなどの間の力学 | 44 |
| データ化 | 46 |
| データとデータ化に対するフェミニスト的アプローチとは何か? | 47 |
| データと同意に対するフェミニスト的アプローチ | 47 |
| データジャスティス、データフェミニズム | 48 |
| データ化に対するフェミニストの視点 | 48 |
| データ保護とデータ主権 | 49 |
| 人工知能 | 51 |
| AI に対するフェミニスト的アプローチとは? | 52 |
| アルゴリズムの公正 | 53 |
| デジタルエコノミー | 55 |
| デジタル経済に対するフェミニスト的アプローチとは? | 56 |
| デジタル経済におけるジェンダー平等 | 56 |
| 労働のプラットフォーム化 | 57 |
| セックスワークとインターネット | 59 |
| 労働に関するフェミニストの未来 | 60 |
| インターネット政策とガバナンス空間におけるジェンダーとフェミニズム | 62 |
| フェミニストインターネットリサーチにおける、そしてそれを通しての更なる進歩を達成するための提言 | 71 |
| 付録 1: | 73 |

図表一覧

図 1: 文書化されたフェミニスト・インターネット研究で研究された主要なトピック
リポジトリ

図 2: フェミニスト・インターネット研究から生まれた横断分析

レポジトリに記録されている

図 3：レポジトリで表現されている地政学的地域

図 4：レポジトリに含まれる国名

図 5：フェミニスト・インターネット研究へのアクセス状況
レポジトリ

図 6：研究者と参加者の間のパワー・ダイナミクスの議論

図 7：レポジトリから浮かび上がった包括的なテーマ領域

図 8：アクセスというテーマに関連するフェミニストインターネットリサーチのトピック

図 9：アクセスに関するフェミニストインターネットリサーチにおける横断点分析

図 10：「表現」テーマに関連するフェミニスト・インターネット研究トピック

図 11：表現に関するフェミニストのインターネット研究における横断分析

図 12：快樂のテーマに関連するフェミニストのインターネット研究テーマ

図 13：快樂に関するフェミニストのインターネット研究での横断点分析

図 14：オンライン GBV というテーマに関連するフェミニストのインターネット研究トピック

図 15：オンライン GBV に関するフェミニストのインターネット研究での横断分析

図 16：監視に関するフェミニストのインターネット研究テーマ

図 17：監視に関するフェミニストのインターネット研究での横断分析

図 18：データ化というテーマに関連するフェミニストのインターネット研究テーマ

図 19：データ化に関するフェミニストのインターネット研究での横断分析

図 20：人工知能のテーマに関連するフェミニストのインターネット研究テーマ

図 21：人工知能に関するフェミニストのインターネット研究での横断点分析

図 22：デジタル経済に関するフェミニスト・インターネット研究テーマ

図 23：デジタルエコノミーに関するフェミニスト・インターネット研究での横断点分析

図 24：ジェンダーをメイントピックとして議論した IGF セッションの数（2016～2019
年）

図 25：ジェンダーに焦点を当てた IGF セッションで議論されたサブトピック
メイントピック

図 26：メイントピックとしてではなく、ジェンダーを統合した IGF セッションの数
（2016-2019）

図 27：上記セッションでジェンダーが議論された方法

用語解説

説明責任

権力を行使する者が、その権力とそれに付随する義務に関連して、使用、乱用、失敗、怠慢、無謀などに対して答えるべき責任と要求のこと。

権威主義

個人の自由と自律性や個人の自由と自律性を犠牲にして、中央集権的で階層的な権威を支持する統治システムまたは社会風土のこと。

シスジェンダー

出生時に割り当てられた性別と同じであると認識すること。

コロニアリズム

ある人々を別の人々に服従させ、その領土や資源を支配することを含む支配の実践と政策。

デジタル・ジャスティス

社会正義の概念をデジタルに拡張したもので、すべての人が経済的、政治的、社会的権利と機会を平等に与えられるべきであるとするもの。

エスノ-宗教的ナショナリズム

ナショナル・アイデンティティと、エスニック・マジョリティが主に信仰する宗教とを混同すること。

ジェンダー

性別が男らしさ、女らしさといった生物学的側面を指すのに対し、ジェンダーは男らしさ、女らしさの連続性の中で、行動的、社会的、文化的、その他の側面を扱う。

ジェンダー表現

外見を含め、性別や性役割の側面を表現するために、人が自分自身を提示する方法。性別の表現は、必ずしもその人のジェンダーのアイデンティティと一致するとは限らない。

グローバル・サウス

北米と西ヨーロッパ以外の地域を広く指す。また、地理を超えたグローバルなパワーダイナミクスと不平等を明確に表現する方法でもある。

ヘイトスピーチ

人種、宗教、性別、セクシュアリティ、エスニシティ、その他のアイデンティティに基づき、ある集団に対する憎悪を生み出すことを意図した言論や表現。

ヘテロノーマティヴィティ

個人または組織において、誰もが異性愛者であり、異性愛は他のどの性的指向よりも優れているという仮定。

インターセクショナルリティ

ある人の社会的・政治的アイデンティティの側面が組み合わさって、差別や特権のさまざまな様式を生み出すことを理解するための分析枠組み。特に黒人女性が直面する複数の差別との関連で、ブラックフェミニストによって提唱されたもの。

軍国主義

軍事的なイデオロギー、影響力、実践を、社会、経済、政治など民間の領域に拡大すること。

新植民主義

植民主義の永続的な遺産と、しばしば後発開発途上国への間接的な支配として現れる現代の植民主義の形態。

新自由主義

人類の発展と幸福を向上させる最善の方法は、自由市場、自由貿易、私有財産権、公共財とコモンスの民営化を強調する制度的枠組みの中で、個人の経済的自由とスキルによってもたらされるという前提に基づく政治経済理論および実践のこと。

ネオリベラル資本主義

新自由主義と新自由主義的なマクロ経済学に基づく資本主義の局面。

ノンバイナリ

男、女という二元的な区分にこだわらない人々が使用するジェンダーのアイデンティティ。

クィア

異性愛者や一夫多妻制をとらない大多数の人々の性的嗜好、方向性、習慣のマトリックスを包含する包括的な用語。

セクシュアリティ

セクシュアリティには、セックス、ジェンダー・アイデンティティと役割、ジェンダー表現、性的指向、エロティシズム、快楽、親密さなどが含まれることがある。セクシュアリティは、思考、空想、願望、信念、態度、価値、行動、実践、役割、および関係の中で経験され表現される。セクシュアリティはこれらすべての次元を含むことができるが、それらすべてが常に経験され、表現されるわけではない。セクシュアリティは、生物学的、心理学的、社会的、経済的、政治的、文化的、法的、歴史的、宗教的、および精神的要因の相互影響を受けている。

性的指向 Sexual orientation

同性/性別、異性/性別、または多くの性別/性別を持つ人々との性的興味、親密な感情的、ロマンチック、および/または性的関係への欲求の方向性。または、そのような欲求がないこと。

トランスジェンダー

出生時に割り当てられた性別とは異なる性別を自認すること。

頭字語・略語

AI - 人工知能

APC - プログレッシブ・コミュニケーションズ協会

APC WRP - プログレッシブ・コミュニケーションズのための協会 女性の権利プログラム
シス - シスジェンダー

EROTICS - Sexuality and the Internet に関する探索的研究

EU - 欧州連合

FIRN - フェミニスト・インターネット・リサーチ・ネットワーク

GBV - ジェンダーに基づく暴力

GDPR - 一般データ保護規則

ICT - 情報通信技術

ICTD - 開発のための情報通信技術

IDRC - 国際開発研究センター

IGF - インターネットガバナンスフォーラム

LGBTIQ+ - レズビアン、ゲイ、バイセクシャル、トランスジェンダーを表現するために使用される包括的な用語。

インターセクシャル、クィア、アセクシャルの各コミュニティ

トランス - トランスジェンダー

国連 - 国連

WSIS - 情報化社会に関する世界首脳会議

分析のための方法論とダイナミックなリサーチリポジトリ

この研究の重要な部分は、フェミニスト¹[1]のインターネット研究のリポジトリを開発し、特にグローバル・サウスからの仕事を収集することに重点を置くことであった。これまでに、クラウドソーシングや学者へのインタビュー、電子メールリストやTwitterなどのソーシャルメディアを通じて、2016年から2021年までの300の著作物が収集された。分野が拡大し続けるにつれ、このリポジトリは、フェミニスト・インターネット研究者が新しい研究を追加し続けることができるダイナミックなものとなっている。また、女性、少女、LGBTIQ+の人々、その他の周縁化されたグループとしてインターネット上に存在することの意味や、それらの経験を形成するイデオロギー、ビジネスモデル、インフラについて、世界中のフェミニスト研究者によって行われている知識創造、文書化、政治分析の証左でもある。図1~4が示すように、彼らは、ジェンダーやその他の経験を考慮した横断的視点を用いて、幅広い分野のトピックを研究している。

1 Repository of research about the internet using feminist and gender frameworks (2016-2021).

<https://docs.google.com/spreadsheets/d/164q60bMKjXpsajrB4l62u14JMAqa6s3DouvUWzNkAnY/edit?usp=sharing>

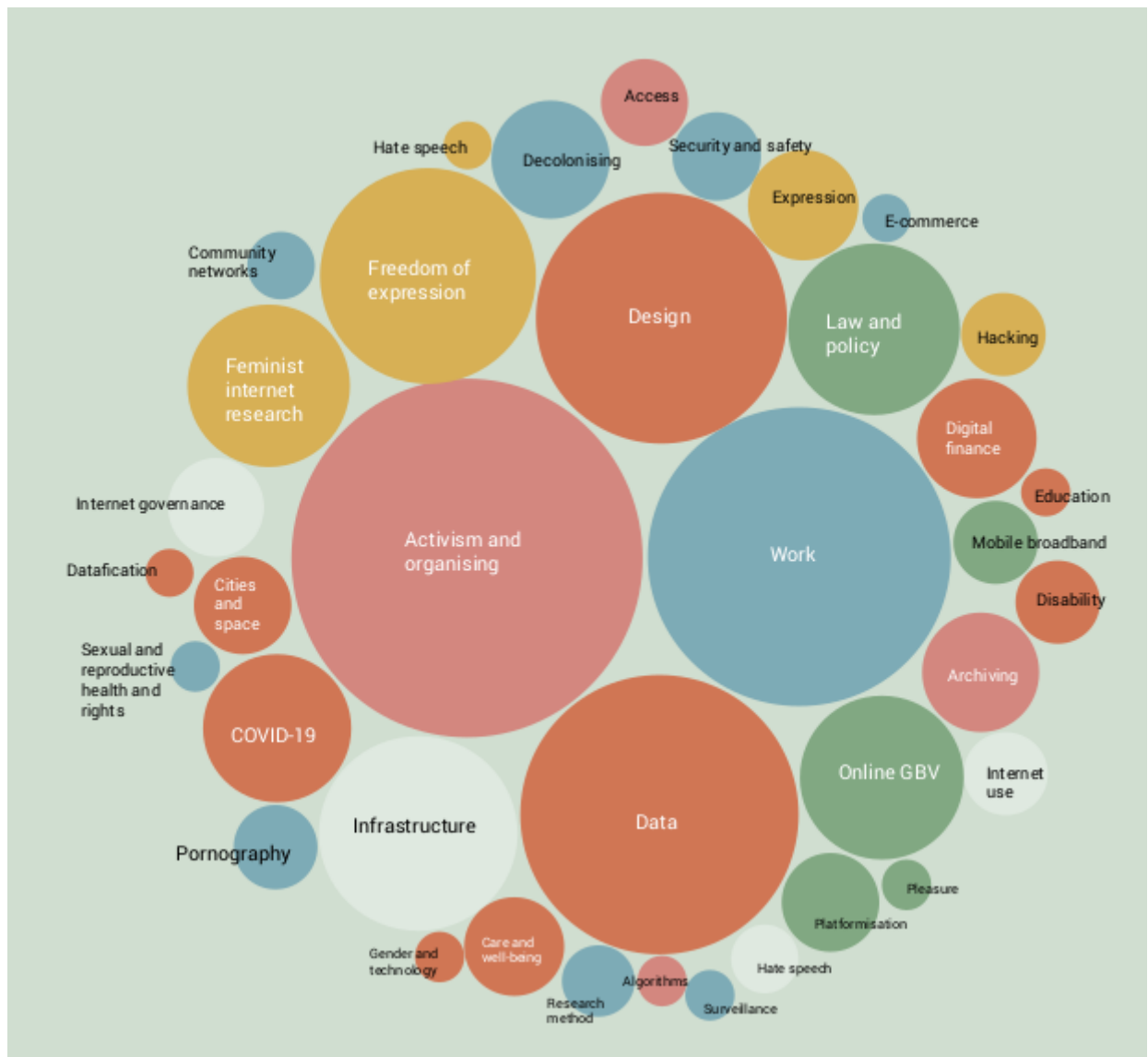


図 1：リポジトリに記録されたフェミニスト・インターネット研究で探求された主要なトピック

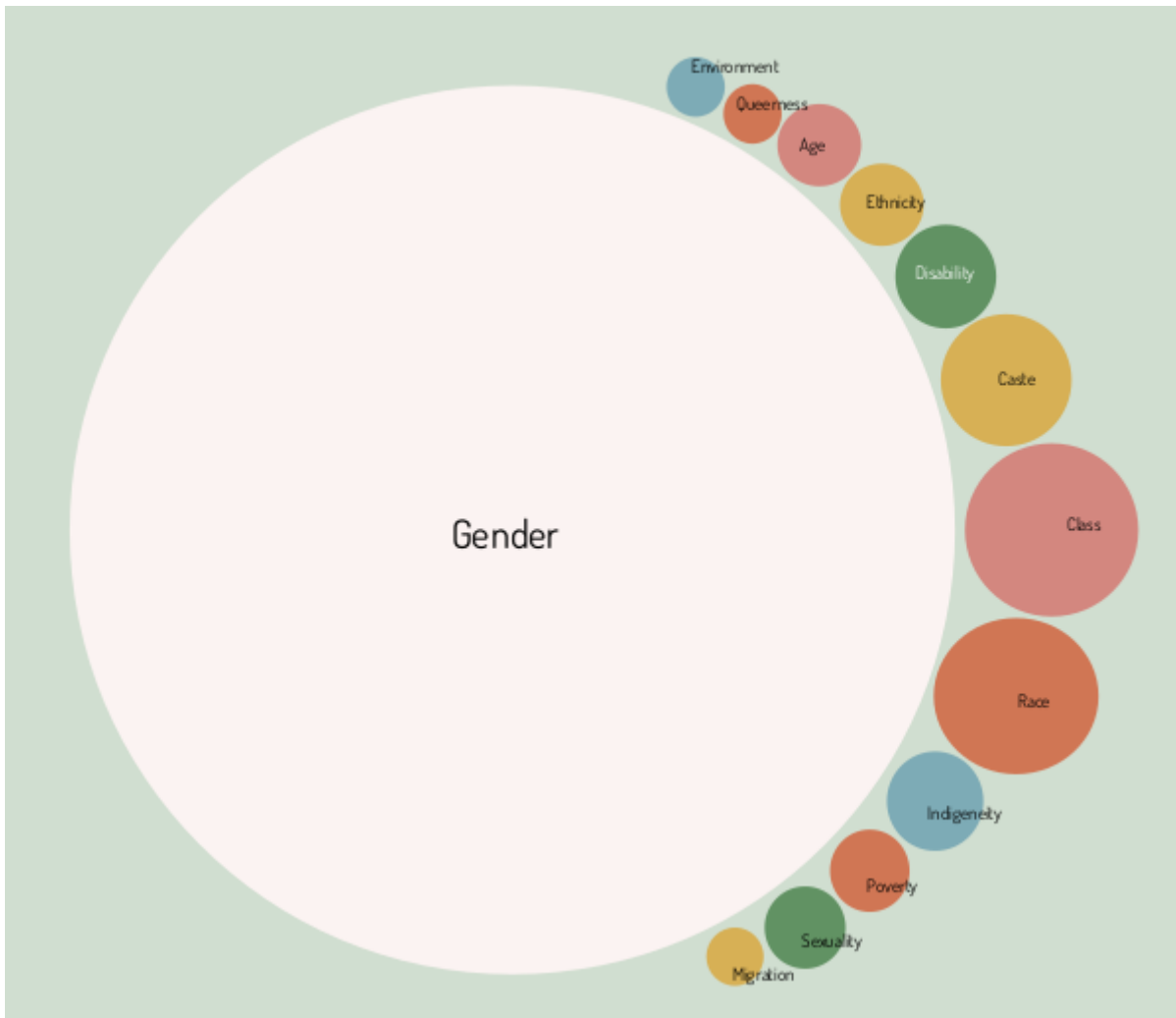


図 2：リポジトリに記録されたフェミニスト・インターネット研究から浮かび上がる横断的分析

リポジトリは、主要なトピック、横断的な包括的テーマ（その一部は本稿のテーマ別レビューで紹介）、国または地域、言語によって分類されている。研究発表の投稿募集では、特に現地の言語による研究も求めているが、このリポジトリは主に英語による研究で構成されている。その他の言語としては、アルメニア語、インドネシア語、グルジア語、ポルトガル語、スペイン語が収録されている。

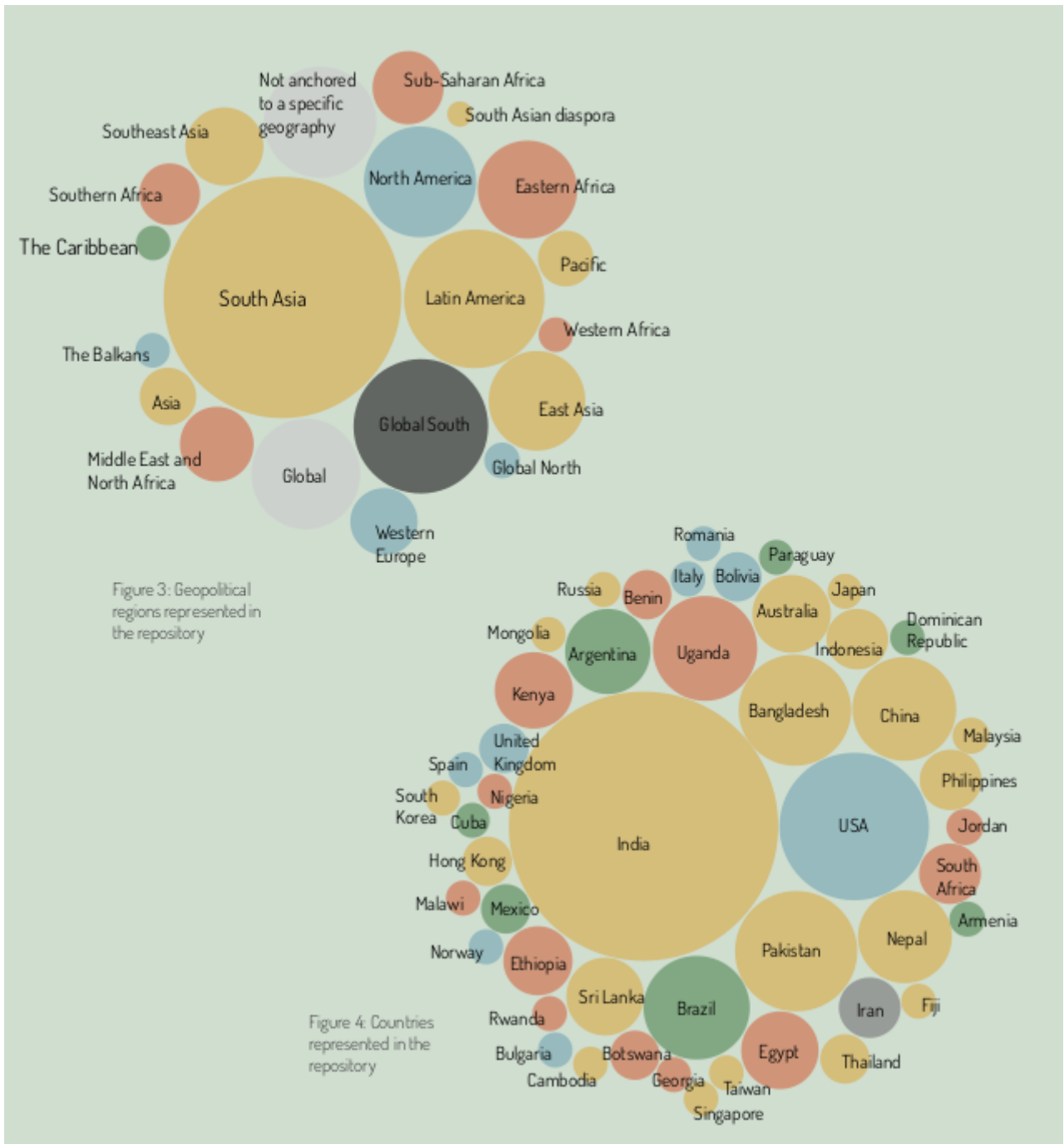


図3：リポジトリに登録されている地政学的地域(上)

図4：リポジトリに登録されている国(下)

また、このリポジトリには、フェミニスト・インターネット研究者が用いた研究方法、発見と結論、政策立案者やさらなる研究のための提言も掲載されている。また、フェミニスト・インターネット研究が出版、共有、アーカイブされる方法が、どの程度フェミニスト

の知る方法に沿っているかを理解するために、リポジトリには研究出版社やオープンアクセスの有無に関する情報も含まれている（図5参照）²。

オープンアクセス



図5：リポジトリに記録されているフェミニスト・インターネット研究へのアクセス状況

このホワイトペーパーは、リポジトリにまとめられた研究のスナップショットを提供するものである。どのような研究が含まれるかは、Association for Progressive Communications Women's Rights Programme (APC WRP)が優先事項として特定したテーマ分野と、いくつかの大陸や地域からの研究や視点を紹介することによって導き出されたものである。したがって、この白書は、網羅的であると主張するものではなく、また、取り上げた研究が、議論されたテーマ領域に関する決定的な研究であるとは見なすものでもない。単に、さまざまな入口からフェミニスト・インターネット研究の領域を読者に紹介しようとしたものである。

この白書の主な限界は、英語圏以外で起こっているフェミニスト・インターネット研究の議論や分析を捉えていないことである。しかし、リポジトリは将来の研究のためにこれらを記録している。もうひとつの課題は、地域や国を超えたエントリーのバランスをとることであった。言語に関する課題もこれに寄与しているかもしれないが、白書の著者が南アジアについて知っており、また南アジアに近かったことも、リポジトリに南アジアが過度に反映されている要因である。しかし、南アジアからの研究の大半はインドからのものであり、モルディブやブータンといった国々は全く含まれていない。アフリカでは、サブサハラ・アフリカ全域の複数国の研究を除けば、見出された研究の大半は東アフリカのもの

² Hussen, T. S. (2019, 29 August). "All that you walk on to get there": How to centre feminist ways of knowing. GenderIT.org.

<https://www.genderit.org/editorial/all-you-walk-get-there-how-centre-feminist-ways-knowing>

であった。アフリカのフランス語圏とフランス語圏の研究を探することは困難であり、隔りがある。

調査結果の概要 本白書より

フェミニスト・インターネット研究は、インターネットの様々な側面や層に批判的な分析をもたらし、新自由主義資本主義の家父長制の構造やシステムがインターネットのデザイン、インフラ、ビジネスモデル、経済、ガバナンスに拡張され埋め込まれている方法を批判するものだ。

フェミニスト・インターネット研究は、私たちがインターネットに属し、働き、創作する方法において、いかにしてジェンダー正義を達成できるかを考察し、インターネットの経済・環境的側面と、女性やLGBTIQ+の人々などがインターネット上で直面する差別や暴力の多重性 intersectionality、私たちの様々なアイデンティティや構造的不平等に基づいて考慮しなければ、これが不可能であることを示すものである。

開発パラダイムは、ジェンダー正義のための「ビジネスケース」を作ることや、新自由主義的個人主義の中でのエンパワーメントの枠組みを越えて、ローカルで草の根的で文脈固有のものであるデジタル市民権 digital citizenship やエンパワーメントが、コミュニティによって作られ作り直されていることを認識しなければならないことが、マッピング調査で明らかになった。

フェミニストの研究によると、国や開発関係者は、女性やその他の疎外されたグループの人々がインターネットにアクセスできるようになることによる「エンパワーメント」の側面を強調するが、基盤となる権利の枠組みが欠如しているため、そのようなアクセスが、有意義で持続可能なアクセスの確保につながるような、関連する自由や保護と密接に関係してこないことが分かっている。

この白書で探求された研究の多くは、テクノロジーとインターネットに対する両極化、全体化、決定論的アプローチに抗い、グローバルサウスの現実から構築されたものである。フェミニストは、監視、データ化、オンラインのジェンダーに基づく暴力（GBV）、そしてそれらを推進する新自由主義資本主義の家父長制的規範と論理に抵抗し、それを覆す。

フェミニストのインターネット研究は、国家、企業、市民社会、学問など、インターネットの構築と統治に関わるすべての関係者に、さまざまなレベルの説明責任を求めている。

フェミニスト・インターネット研究は、インターネットを改革するプロジェクトを支持し続けるが、インターネットやその他の情報通信技術（ICT）を含む我々の世界を形成して

きた歴史的かつ継続的なヘゲモニーを認識し対処することなしにそれを行うことの固有の限界を指摘するものである。

フェミニストのインターネット研究は、データについて、新自由主義的な資本主義的で実体のないアプローチから、データを体現し、データに基づいて行われる決定の影響を受ける人々の権利、基本的自由と尊厳を支持することを中心としたアプローチに転換することが急務であると指摘する。

フェミニストの概念化、同意、労働、デザイン、法律、ジェンダー、プライバシー、ケアなどの理論と実践は、最も周縁化されたグループの人々のニーズと現実を中心にインターネットを（再）構築する方法として提示されている。この作業をすでに行っている人々の作業と学習は、フェミニスト研究を通じて記録されている。また、フェミニスト研究者は、このような再構築を行うために、抑圧的な構造、システム、デザインを脱植民地化するためのフレームワークを紹介している。

例えば、人工知能（AI）を脱植民地化するためのフェミニストの枠組みは、単にAIを修正したり改革したりするのではなく、AI以上に広く深くこれらの問題の根源に迫ることを目的としている点で共通している。

フェミニストのインターネット研究は、インターネットに対する実体のない非人間的なアプローチに抵抗し、データ、監視、暴力、喜び、アルゴリズム、デジタル経済などに関する議論を、それらが人々にもたらす具体的な害と具体的な機会について続ける。フェミニストは、オンラインGBVやデジタル経済のような一見無関係なトピックの間に点を結び、運動、地域、コミュニティを越えて手を差し伸べ、別々の闘争と共通の闘いを理解することを目指している。

フェミニスト的なアプローチは、暴力をどのように理解し、研究し、取り組むかについて、より多くの交わりを必要としている。GBVは、オンラインでもオフラインでも、階級、カースト、セクシュアリティ、障害、人種、エスニシティ、宗教、貧困など様々な要因によって悪化し、パワーダイナミクスがそれらに関連してどのように顕在化するかという問題である。自律的なインフラストラクチャーについて、ローカライズされ、具体化された知識を提供するフェミニスト研究が増えれば、中央集権的、トップダウン的、市場原理的、国家統制的なアクセス形態を超えたアクセスを構想、概念化、提唱する方法が生み出されるかもしれない。

はじめに

APC WRP は、研究者、活動家、学者、思想家、コーダー、アーティストなどのネットワークを構築・強化することによって、フェミニスト・インターネットを構想し、実現することを目指してきた。国際開発研究センター（IDRC）の支援を受けたフェミニスト・インターネット研究ネットワーク（FIRN）プロジェクトの一環として、この白書は、特に南半球の学問に焦点を当て、インターネットガバナンスと政策に関連したフェミニスト・インターネット研究を評価することを目的としている。

マッピング作業（方法論については次のセクションで詳述する）で特定されたすべてのトピックのうち、本白書は、これらの主題に対するフェミニスト的アプローチ、フェミニスト・インターネット研究による主要な分析領域と境界の押し広げ、さらなる研究の機会を理解するために、8つのトピックを深く掘り下げていく。トピックは、アクセス、表現、快楽、オンライン GBV、監視、データとデータ化、人工知能とデジタル経済である。

また、インターネット・ガバナンス・フォーラム（IGF）という国際的な場を中心に、インターネット政策の場でジェンダーや関連するテーマ領域がどのように議論されているかを概説し、さらなる研究、研究の進め方や普及、政策立案と説明責任、研究の内容に沿った資金調達優先順位などについて提言を行なっている。

フェミニスト・インターネットとは何か？

「進歩的なイデオロギーとして、フェミニズムは、より不利なコミュニティ、特に女性やクィア、ジェンダー的に多様な個人や集団による多様な経験、理論的知識、世界の解釈に対応するために、自らを再構築し革新する」.....。

- ティギスト・シェワレガ・フッセン Tigist Shewarega Hussen³[3]

フェミニスト・インターネットとは何か、インターネットやテクノロジーに対するジェンダーのアプローチとどう違うのか？最も簡単な説明は、ジェンダーと男女平等はフェミニスト・インターネットの重要な側面であるが、唯一の側面ではない、ということだ。フェミニズムはあらゆるジェンダーの平等を目指す一方で、私たちの誰もが単一の問題だけを解決する人生を送っておらず、私たちの生活体験はジェンダー、人種、エスニシティ、階級、カースト、セクシャリティ、障害といった要素が横断することによって形成されていることを認識している。

インターネットに対するフェミニストのアプローチは、インターネットやその他のテクノロジーを含む私たちの世界における不平等が、家父長制、人種差別、植民地主義、新植民地主義、軍国主義、権威主義、民族宗教的民族主義、マクロ経済政策、新自由主義資本主義に基づくビジネスモデルなどの権力の構造とシステムに根ざしているという意識に基づいている。インターネットに対するフェミニスト的アプローチは、女性、少女、LGBTIQ+の人々が、自由で、楽しく、解放的な方法でインターネットを利用する権利と、自律性と主体性をもって彼らを中心に据えたインターネットを設計し作るための自由、能力、資源を擁護するものである。

インターネットに対するフェミニストの関わりは、インターネットそのものと同じくらい古く⁴、テクノロジーに対するフェミニストの関わりはさらに遡る。Web2.0⁵や1990年代初頭のソーシャルで参加型のWebはプラットフォーム資本主義の台頭をもたらし、やがて一握りの企業による壁のある庭園と支配を生み出した。その結果、私たちがどのようにインターネットを利用し、創造し、批評し、研究し、関わっていくかについて、厳格なフェミニストの意識が必要とされた。長年にわたる研究により、女性や少女のインターネットへ

3 Ibid

4 Haraway, D. (1991). *Simians, Cyborgs, and Women: The Reinvention of Nature*. Routledge.

5 DiNucci, D. (1999). *Fragmented Future*. Print, 53(4).

http://darcy.com/fragmented_future.pdf

のアクセスの増加は、彼女たちに対するネット上の暴力の増加に正比例していることが明らかになっている⁶。

COVID-19の流行期間中、女性、少女、LGBTIQ+の人々が、流行による移動の困難さのためにインターネットをより頻繁に利用する一方で、オンライン暴力の増加を経験しており、このことがこれまで以上にはっきりと見られる。⁷ インターネットに対するフェミニストのアプローチは、これらの相関関係が家父長制とジェンダー不平等だけでなく、以下を含むが、これに限らない他の多くの寄与要因によることを明らかにしている。

- いかなるエンゲージメントも利益を生むエンゲージメントだと考えるインターネット・プラットフォームの資本主義的なビジネスモデル⁸。
- インターネットの植民地的・植民地化的な設計とインフラ⁹。
- 「強力な技術を開発し実装する人々」からの透明性と説明責任の欠如¹⁰。
- 社会から疎外された人々の司法へのアクセスの欠如¹¹[11]。

6 Doria, A. (2015). Women's rights, gender and internet governance. Association for Progressive Communications. https://www.genderit.org/sites/default/files/issue_womenrights_digital_1.pdf

7 UN Women. (2020). Online and ICT-facilitated violence against women and girls during COVID-19. UN Women. <https://www.unwomen.org/en/digital-library/publications/2020/04/brief-online-and-ict-facilitated-violence-against-women-and-girls-during-covid-19>

8 KRYSS Network. (2021). Power X Expression X Violence: Women's freedom of expression on social media in Malaysia. <https://firn.genderit.org/research/power-x-expression-x-violence-womens-freedom-expression-social-media-malaysia>

9 Peña, P., & Varon, J. (2019). Decolonising AI: A transfeminist approach to data and social justice. In A. Finlay (Ed.), Global Information Society Watch 2019: Artificial intelligence. APC, ARTICLE 19 & Sida. <https://www.giswatch.org/node/6203>

10 Kovacs, A. (2017). Reading Surveillance through a Gendered Lens: Some Theory. Internet Democracy Project. <https://genderingsurveillance.internetdemocracy.in/theory>

11 Iyer, N., Nyamwire, B., & Nabulega, S. (2020). Alternate Realities, Alternate Internets: African Feminist Research for a Feminist Internet. Pollicy. https://www.apc.org/sites/default/files/Report_FINAL.pdf

EnRedadas Nicaragua¹²や Metras Palestine¹³のような草の根やコミュニティベースのグループから、Derechos Digitales¹⁴や Digital Rights Foundation¹⁵ から FIRN¹⁶のような国境を越えたグローバルな形成や、インターネットのフェミニスト原則¹⁷を繰り返し構築するために集まった人々を含むフェミニストインターネットネットワークとして一緒にスペースを保持しているフェミニストの緩い集団のような国や地域のグループまで、さまざまな社会運動からフェミニストのインターネットをイメージし作り上げるさまざまな組織が存在する。

これらのフェミニスト・インターネットの想像と構築は、アフリカ、アジア、中東・北アフリカ、ラテンアメリカ、東ヨーロッパからもたらされ、北米と西ヨーロッパが知識の源泉とインターネットの骨組みに保持している覇権的権力に挑戦している。フェミニスト・インターネットを作ることは、インターネットの新自由主義的資本主義的家父長制的表現に挑戦し、より多くの少女、女性、障害者、LGBTIQ+の人々、低所得者層などを支援しリソースを提供して、私たち自身のフェミニスト・インフラを作り、その阻害に目を向けている。

インターネットのフェミニスト的原則は、フェミニスト的インターネットを探求するための素晴らしい出発点だ。それは、「より多くの女性やクィアな人々——あらゆる多様性のなかで——が、自らの権利を十分に享受し、喜びや遊びに従事し、家父長制を解体する力を与える」¹⁸ために活動する「私たちが望むインターネットのあり方を表現し、その形成に貢献するもの」¹⁹だ。この白書で探求する横断テーマ研究領域は、フェミニストインターネットの構成要素を記録し、批判的に分析し、これに貢献するものである。

12 <https://enredadas.org>

13 <https://youngfeministfund.org/grantees/metras-palestine-young-women-group>

14 <https://www.derechosdigitales.org>

15 <https://digitalrightsfoundation.pk>

16 <https://firn.genderit.org>

17 <https://feministinternet.org/en>

18 <https://feministinternet.org/en>

19 Kee, J. (2017). Imagine a Feminist Internet. *Development*, 60(1-2), 83-89.

<https://www.genderit.org/sites/default/files/kee2018.pdf>

フェミニストインターネットリサーチとは？

「フェミニスト・リサーチは厄介だ。どれだけ面倒くさいか、でもどれだけ人間らしいか、ということと格闘している……。」

リサーチは、フェミニスト・インターネットを想像し、実現するための重要な要素である。FIRNによって指摘されているように、「証拠を構築し、データを収集し、可視化し、効果的に研究結果を伝えることは、政策改革と同様にアクティビズムに影響を与え、影響を及ぼすための重要で重要な方法」であり²⁰、これこそフェミニストのインターネット研究が目指しているものである。

フェミニストインターネットリサーチは、方法論から実体分析、知識の普及、引用、お互いの知識の構築まで、研究のあらゆる側面にフェミニストとしての批判的な視点を適用する。それは、「オンラインとオフラインに存在する複数の横断する権力構造に注目することによって、批判的なフェミニストの介入としての知識構築に焦点を当てる」²¹。フェミニスト・インターネット・リサーチは、インターネット政策の議論と意思決定で通常疎外されるコミュニティ、経験、ニーズを特定し、インターネットがいかに形成、経験、統治されるかにそれらが中心であることを確認することを目的としている。

フェミニスト・インターネット研究は、このようなコミュニティについて知識を得たり、コミュニティと協働したりする際に、研究者が持つ役割、権力、特権についても取り組んでいる。以下の記述は、フェミニストのインターネット研究者が、フェミニストのプラクティスとしての研究についての考察²²をいくつかまとめたものである。

フェミニスト研究は厄介である。私は、それがいかに厄介なものであるか、また、いかに人間的なものであるかと格闘している……。

フェミニズムが暴露し、研究の前に立ちはだかるパワー・ダイナミクスに注意を払わなければ、何か重要なことを見逃してしまうだろう。私の学びは、人権について話すだけでは不十分で、フェミニズムは研究やインターネットに関して適切な視点を与えてくれる。

²⁰ Yusof, L. (2020). APC Feminist Internet Research Network (FIRN) second convening report (summary). APC. <https://www.apc.org/en/pubs/feminist-internet-research-network-firn-second-convening-report-summary>

²¹ Ibid.

²² Ibid.

研究の過程、自分が学んでいること、そして他の誰かが関わったテキストに書かれていることの間には、大きな（そして非常に生産的な）沈黙が存在することを知った。その距離と沈黙を読み解くことが、アクティブ・リーディングの行為なのだ。

フェミニスト研究の方法論

この白書に付属するリポジトリ²³では、研究者が使用するフェミニスト研究の方法論について名前を挙げ、詳しく説明している。本論文の目的にはあまりにも内容が濃いだが、以下のアウトラインは、アフリカ、アジア、バルカン、ラテンアメリカの8つの研究プロジェクトのサンプルによって設計、使用、反映された方法論を示している。これらは現在、FIRN とのパートナーシップのもとで行われている一連の研究成果である。²⁴[24]

8つの研究プロジェクトはすべて質的方法を主要な研究方法としているが、5つの研究プロジェクトは調査やアンケートなどの量的方法も含む混合方法を用いている。ただし、研究者が信頼関係を築き、必要に応じてサポートを提供できるように、参加者と直接会って調査を実施したものもある。質的な手法としては、掘り下げたインタビュー、参与的・没入的 immersive ワークショップ、フォーカス・グループ・ディスカッションなどが用いられた。

ほとんどの研究者は、研究プロジェクトを意図的にフェミニストのケアの倫理²⁵に基づいて設計し、研究者と研究参加者の間の力の不均衡を常に問い、様々な方法でこれに対処しようとした。

23 Repository of research about the internet using feminist and gender frameworks (2016-2021). Op. cit.

24 <https://firn.genderit.org>

25 Tronto, J. C. (2005). An ethic of care. In A. Cudd & R. Andreasen (Eds.), *Feminist Theory: A Philosophical Anthology*. Blackwell Publishing.



図 6：研究者と参加者間のパワー・ダイナミクスの議論

インド

Centre for Internet & Society (CIS)は、プラットフォームワーカーを研究する際、そのほとんどが低所得者層のダリット、バフジャン、アディバシ女性であり、階級やカーストの位置づけを考慮している。このことを認識し、対処しようとする一つの方法は、プロジェクトの共同研究者である家事労働者権利組合（DWRU）との緊密な協力関係である。これは、研究に参加した労働者に説明可能な方法で研究が設計され実施されることを保証する上でも重要であったと彼らは振り返っている²⁶。

ブルガリア

ブルーリンク財団は、オンライン GBV のサバイバーである研究参加者が、研究参加中にプライバシーや安全性の侵害だけでなく、感情的な侵害も受けないようにするために取った措置について述べている。また、参加者の一部と同じコミュニティに属していることから、いくつかの議論が研究者としての負担になったことについても議論している²⁷。

²⁶ Rathi, A., & Tandon, A. (2021). Platforms, Power, and Politics: Perspectives from Domestic and Care Work in India. Centre for Internet & Society & Domestic Workers' Rights Union.

<https://firn.genderit.org/sites/default/files/2021-06/Platforms%20Power%20and%20Politics%20full%20report.pdf>

²⁷ BlueLink Foundation. (2020). After the Storm: How to restore policy dialogue and supportive discourse against GBV online in Bulgaria.

ケニア、エチオピア、ウガンダ、セネガル、南アフリカ

Pollicyは、データ収集を開始する前に、すべての研究実施者が倫理に関するトレーニングを受け、とりわけ、参加者が自分の経験について話したくない情報を共有する義務はないことを強調したことを紹介している。インタビューの後、参加者が心理社会的支援を必要とする場合、研究者は支援サービスにつなぐことができたということです²⁸。

ブラジル

コミュニティ・ネットワークに関するアクション・リサーチ・プロジェクトを実施したVedetasは、研究者が到着した際のコミュニティでの家庭訪問、研究者と参加者の間で人種やジェンダーの力学についてオープンで時には不愉快な議論をする、学校のスケジュールや子育てに配慮しながら議論のスケジュールを組む、料理や家事の中断が少ないように参加者に集合食事を提供するなど、いかに研究対象のコミュニティに身を置いたか、多くの振り返りがなされている²⁹。

https://firn.genderit.org/sites/default/files/2021-07/BlueLink_After-the-Storm_Final-Report.pdf

28 Iyer, N., Nyamwire, B., & Nabulega, S. (2020). Op. cit.

29 Vedetas. (2021). Encounters, coffees and conflicts: Reflections from an action-research on a feminist autonomous network. <https://firn.genderit.org/research/encounters-coffees-and-conflicts-reflections-action-research-feminist-autonomous-network>

フェミニストインターネットリサーチのテーマ別レビュー

このセクションでは、先に述べたインターネットに対するフェミニスト的アプローチのビジョン、政治、実践のいくつかを具体化しようとする研究のテーマ別レビューから得られた知見を共有する。

図1に示すように、リポジトリに集められた研究は、幅広いトピックをカバーしている。それぞれの研究は、このセクションでレビューする8つの包括的なテーマ領域（図7）のうちの一つ以上にまたがっている。

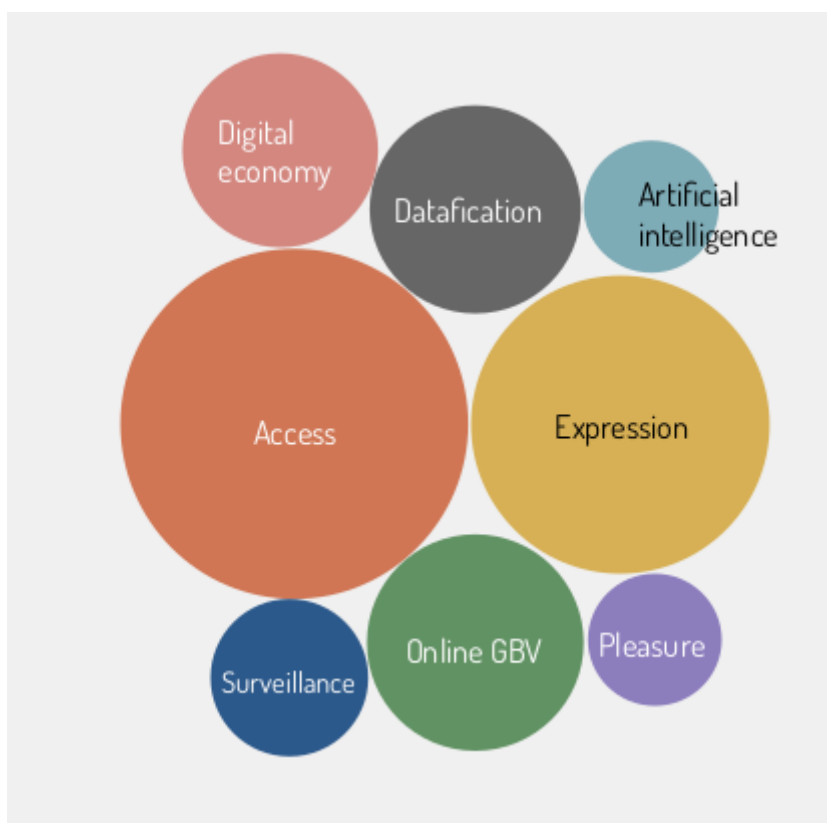


図7：リポジトリから浮かび上がった包括的なテーマ領域

アクセス

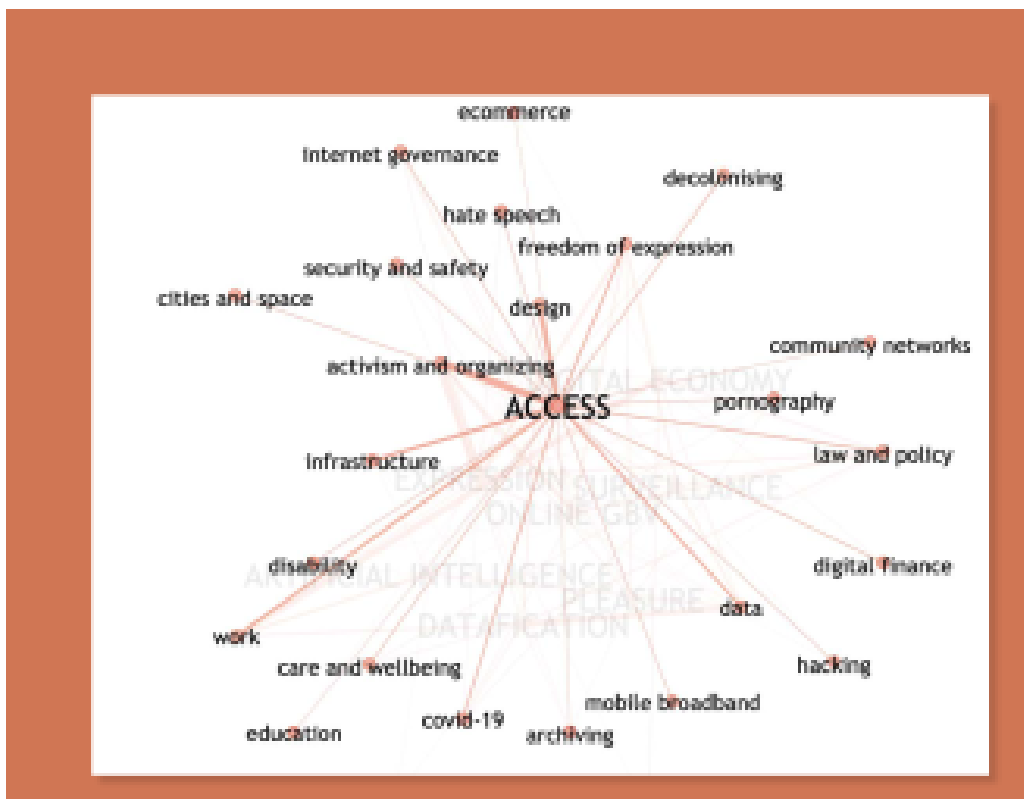


図 8：アクセスというテーマに関連するフェミニスト・インターネット研究のトピック

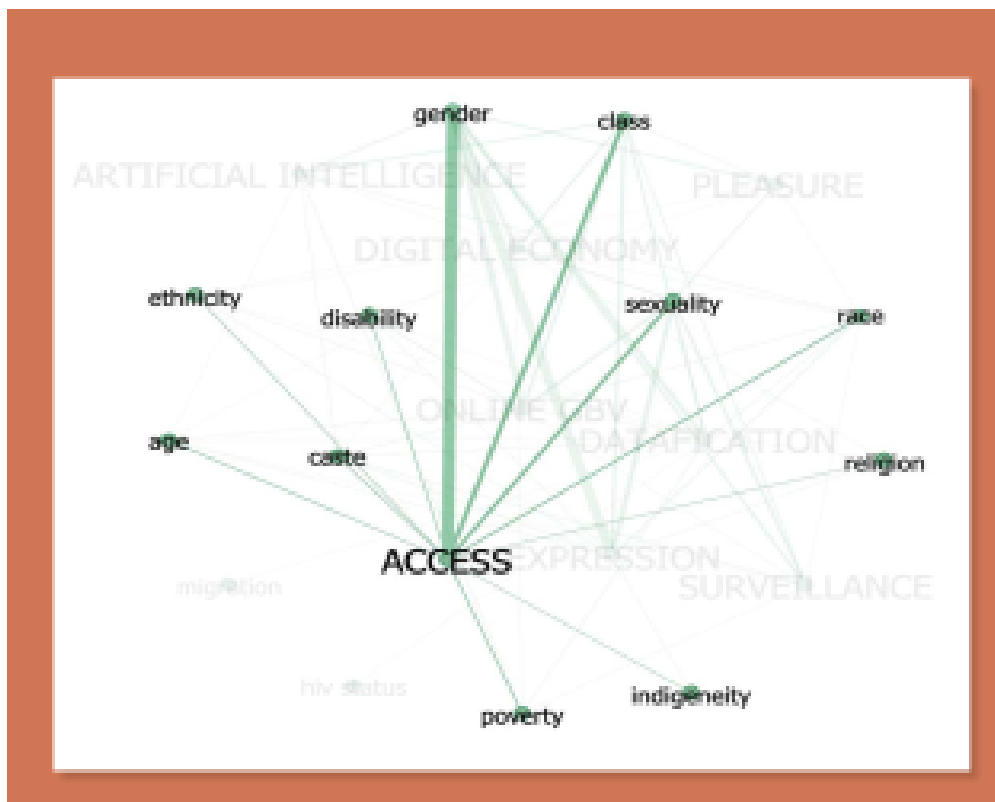


図 9：アクセスに関するフェミニスト・インターネット研究での横断点分析

この項では、次のようなことを議論する。

- アクセスに対するフェミニスト的アプローチとは？
- インフラとデザイン
- デジタル・ジェンダー・ギャップへの対応
- アクセスから積極的な利用へ
- アクセスに関する細分化されたデータにおけるジェンダーアイデンティティ
- COVID-19 がアクセスに与える影響。

アクセスに対するフェミニスト的アプローチとは？

「アクセス」とは何を意味するのか？そして、アクセスとジェンダーに関する研究、政策提言、意思決定は、どのようにして成功の指標としての「包摂」を超えることができるのか？これらは以前に行われたフェミニスト・インターネット研究のマッピング³⁰[30]で探求された問いの一部であり、調査では「単なるアクセスでは不十分であるという認識が高まっている」³¹ことを明らかにした。アクセスに対するフェミニスト的アプローチは「より多くの女性とクィアの人々がインターネットへの普遍的、受け入れ可能、安価、無条件、オープン、有意義かつ平等なアクセスを享受できるようにする」ことを目的としている。

³²

インフラとデザイン

インフラに関するフェミニストのインターネット研究は、女性や他の疎外されたグループの人々がインターネットにアクセスし利用する上で制限となる、ハードウェア、ソフトウェア、デジタルネットワークなどのインフラの概念化、設計、構築、開発、メンテナンスに内在する問題を改善、さらにはオーバーホールする余地が多くあることを示している。

- アクセスの重要な側面であるインターネットのより大きな、より安全な能動的使用を可能にする「ソーシャルメディア上のプライバシーと参加をサポートする技術」を設計するた

³⁰ van der Spuy, A., & Aavriti, N. (2018). Mapping research in gender and digital technology. APC. <https://www.apc.org/en/pubs/map-ping-research-gender-and-digital-technology>

³¹ Ibid.

³² <https://feministinternet.org/en/principle/access>

めのより深い洞察を明かにできる」単一のプラットフォームではなく、「プラットフォームのエコシステム」の観点からソーシャルメディアの使用を理解する必要性がある³³。

- インフラは、障害者などの集団がインターネットにアクセスし、利用する際の方法に制限を加えることがある³⁴。

- コミュニティベースの自律的なインフラは、コミュニティネットワークの構築と維持においてジェンダー的、世代間的な力関係を伴うものの、「レジスタンスとしてのアクセス」³⁵となりうる。³⁶

デジタル・ジェンダー・ギャップへの対応

この白書では、「デジタル・ジェンダー・ギャップ」、その根本的な原因、および削減のための戦略に引き続き焦点を当てる。これらは、開発、権利に基づく、フェミニストおよび正義の枠組みを含む様々な枠組みに根ざしている。

- 携帯電話の所有におけるジェンダー・ギャップは、アフリカ、アジア、ラテンアメリカにおいて依然として問題である³⁷。

- 女性のためのアクセスを想定する際には、ジェンダーに関する文化的・社会的規範を考慮する必要がある³⁸。

33 Karusala, N., Bhalla, A., & Kumar, N. (2019). Privacy, Patriarchy, and Participation on Social Media. *DIS '19: Proceedings of the 2019 ACM Designing Interactive Systems Conference*.

<https://static1.squarespace.com/static/59f549a3b7411c736b42936a/t/5cc217e-d1464540001305a53/1556223981510/DIS2019.pdf>

34 Busuulwa, A., Baguma, R., Wakabi, W., Kimumwe, P., & Kalemera, A. (2020). Access Denied: How Telecom Operators in Africa Are Failing Persons With Disabilities. CIPESA.

<https://cipesa.org/2020/09/report-launch-how-telecom-operators-in-africa-are-failing-persons-with-disabilities>

35 Roussel, N., & Stolfi, A. (2020). Taking Back the Future: A Short History of Singular Technologies in Brazil. *Catalyst: Feminism, Theory, Technoscience*, 6(2), 1-27.

<https://doi.org/10.28968/cftt.v6i2.33191>

36 Bidwell, N. (2020). Generational Gaps: Women, Rural Traditions and Community Networks*. *Cadernos Pagu*, 59. <https://doi.org/10.1590/18094449202000590004>

37 LIRNEasia. (2019). AfterAccess: ICT access and use in Asia and the Global South (Version 3.0). LIRNEasia. <https://lirneasia.net/2019/05/>

38 Sicat, M., Xu, A., Mehetaj, E., Ferrantino, M., & Chemutai, V. (2020). Leveraging ICT Technologies in Closing the Gender Gap. World Bank.

<https://openknowledge.worldbank.org/handle/10986/33165>

- 多くの国が取り組み続けている植民地主義の遺産を考慮し、「抑圧された者が植民地資産を再利用するためのアントロポファジスト anthropophagist モデル」の中でアクセスを探求する必要がある³⁹。
- 「女性の労働力率の低さ、可処分所得へのアクセス、女性のインターネットに対する必要性の認識、女性の実際のインターネットへのアクセスと利用の間には強い関連性がある」⁴⁰。
- また、アクセスの障壁として、経済的な余裕に関する様々な課題もある。⁴¹
- 「女性のデジタル市民権」は、ジェンダーとデジタルの権利を単にアクセス格差に対処することに還元することに対抗し、代わりにアクセスを進行中のプロセスではなく、それ自体が目的であると概念化する包括的なフレームワークになりうる。⁴²

アクセスから積極的な利用へ

アクセスは継続的なプロセスであり、アクセスや利用に影響を与える要因だけでなく、そのようなアクセスや利用の維持に影響を与える要因も考慮しなければならない。

- インターネットのコストや速度、時間的制約、セキュリティ、プライバシー、現地の情報不足 言語コンテンツなどは、積極的なインターネット利用に影響を与える可能性がある。⁴³ デバイスの所有権、手頃な価格、インターネットに関する認識やスキルの不足は、女性の方がより多く引き合いに出される⁴⁴。

39 Roussel, N., & Stolfi, A. (2020). Op. cit.

40 Research ICT Africa. (2021, 30 April). Watch: RIA's Araba Sey on Causes of the Digital Gender Gap in Africa. Research ICT Africa. <https://researchictafrica.net/2021/04/30/watch-what-causes-the-digital-gender-gap>

41 Women of Uganda Network. (2020). Examining women's access to digital platforms: A case of mobile broadband connections in Uganda.

WOUNET & APC. https://www.apc.org/sites/default/files/Womens_Access_to_Digital_Platform-Policy_Brief.pdf

42 Gurumurthy, A., Vasudevan, A., & Chami, N. (2019). Born Digital, Born Free? A socio-legal study on young women's experiences of online violence in South India. IT for Change. https://itforchange.net/sites/default/files/1662/Executive_Summary_Born_digital-Born-free_1.pdf

43 LIRNEasia. (2019). Op. cit.

44 Zainudeen, A., Galpaya, H., Amarasinghe, T., & Mohamed, F. (2019). ICT access and use by women in the Global South. Presentation at "Imagine a Feminist Internet: South Asia" on 21 February, Negombo, Sri Lanka. <https://lirneasia.net/2019/02/ict-access-and-use-by-women-in-the-global-south-presentation>

- 女性のインターネットアクセスと利用を「受動的消費」を超えて理解し、「ICTプロデューサーとデザイナー」としての女性の役割、欲求、可能性を十分に検討することが重要である⁴⁵。
- インターネットの使用とアクセスに対する障壁は、特に女性の生活の経済的、社会的、政治的、文化的側面に影響を与え、ますます国家にその原因があると考えられるようになってつつある。⁴⁶
- インターネット遮断への抵抗は遮断の経済的影響を指摘しているが、これらは多くの女性やその他の疎外されたグループの人々が属しているインフォーマル経済への影響を考慮していない場合が多い。⁴⁷

アクセスに関する細分化されたデータにおけるジェンダーアイデンティティ

インターネットへのアクセスと利用のジェンダー的側面は、しばしば女性の体験を考慮することで問題視されることがある。これは、アクセスを調査する際に、世帯調査やブロードバンド統計などの定量的データに頼っていることが一因であり、それらはしばしば集計されておらず、性別で集計されている場合でも、性別または男女の二元論であることが多い。

いくつかの研究はこれを限界として認めているが、フェミニストのインターネット研究が取り組むべきことのひとつである。⁴⁸

Covid-19 がアクセスに与える影響

2020年以降、多くの研究者がCOVID-19がインターネットアクセスや利用に及ぼすジェンダー的な影響を考察している。

45 Segers, I., & Arora, P. (2016). Smashing patriarchy with cell phones? -- Critique of dominant technofeminist perspectives on mobile phone-enabled women's empowerment programmes in Bangladesh. Feminist Studies Division, International Communication Association, Fukuoka Japan. <https://core.ac.uk/download/pdf/154416894.pdf>

46 Aceng, S. (2020). The Impact of Internet Shutdowns on Women in Uganda. WOUNET. <https://drive.google.com/file/d/1Zlecpuf-GvuaqMs-8GaA02vWia8VbQ5Zd/view>

47 Brown, D., & Pytlak, A. (2020). Why Gender Matters in International Cyber Security. Women's International League for Peace and Freedom & Association for Progressive Communications. https://www.apc.org/sites/default/files/Gender_Matters_Report_Web_A4.pdf

48 Brindaalakshmi.K. (2020). Gendering of Development Data in India: Beyond the Binary. Centre for Internet & Society. <https://cis-india.org/raw/brindaalakshmi-k-gendering-development-data-india>

- パンデミックの間、インターネットを利用する必要性が高まる一方で、「これまで教育機関や職場、図書館など自宅以外でインターネットにアクセスしていた多くの女性が、コロナウイルスのために実施されたロックダウンと移動制限のためにアクセスできなくなった。」⁴⁹
- パンデミックの間、教育はほとんどオンラインに移行したが、ほとんどの女性と少女は、接続性、デバイス、オンラインになれる自由をめぐる課題に直面している。⁵⁰
- COVID-19 のための疾病監視は、すべてを網羅するようになり、人々のプライバシー、身体の完全性、尊厳を損なっている。⁵¹

49 Rehman, Z., Kamran, H., & Batool Khan, Z. (2021). Women Disconnected: Feminist Case Studies on the Gender Digital Divide Amidst COVID-19. Media Matters for Democracy. <https://www.digitalrightsmonitor.pk/wp-content/uploads/2021/01/Women-Disconnect-ed-Gender-Digital-Divide-in-Pakistan.pdf>

50 Isaac, A. (2020). Reflections on COVID-19 policy responses in Uganda and the relevance of the African Declaration on Internet Rights and Freedoms for promoting women's rights online. African Declaration on Internet Rights and Freedoms Coalition. https://african-internetrights.org/sites/default/files/Amuku_Isaac.pdf

51 Radhakrishnan, R. (2020). "I took Allah's name and stepped out": Bodies, Data and Embodied Experiences of Surveillance and Control during COVID-19 in India. Data Governance Network. <https://datagovernance.org/files/research/1605159201.pdf>

表現

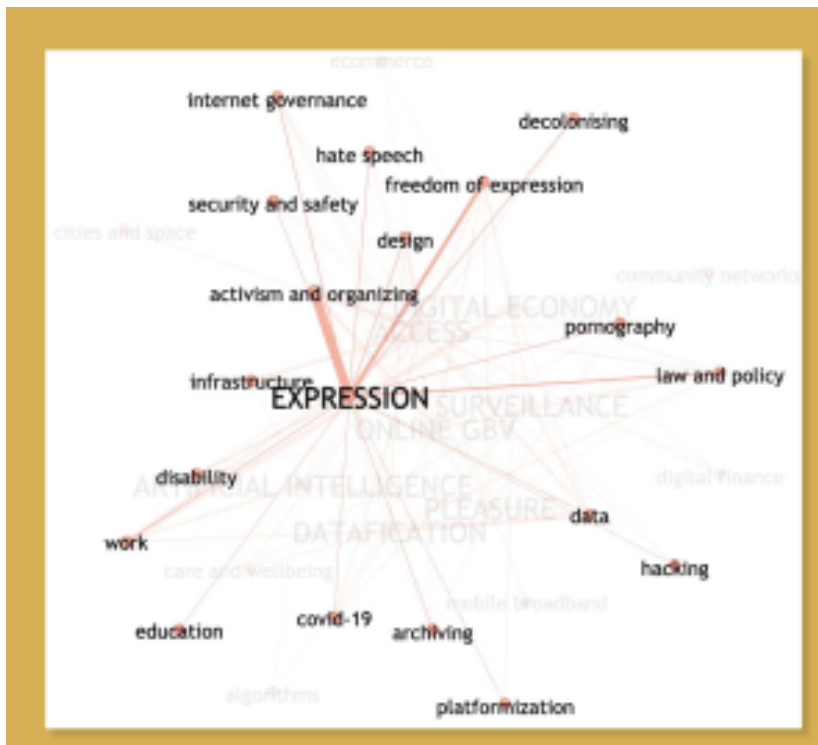


図 10：表現テーマに関連するフェミニスト・インターネット研究テーマ

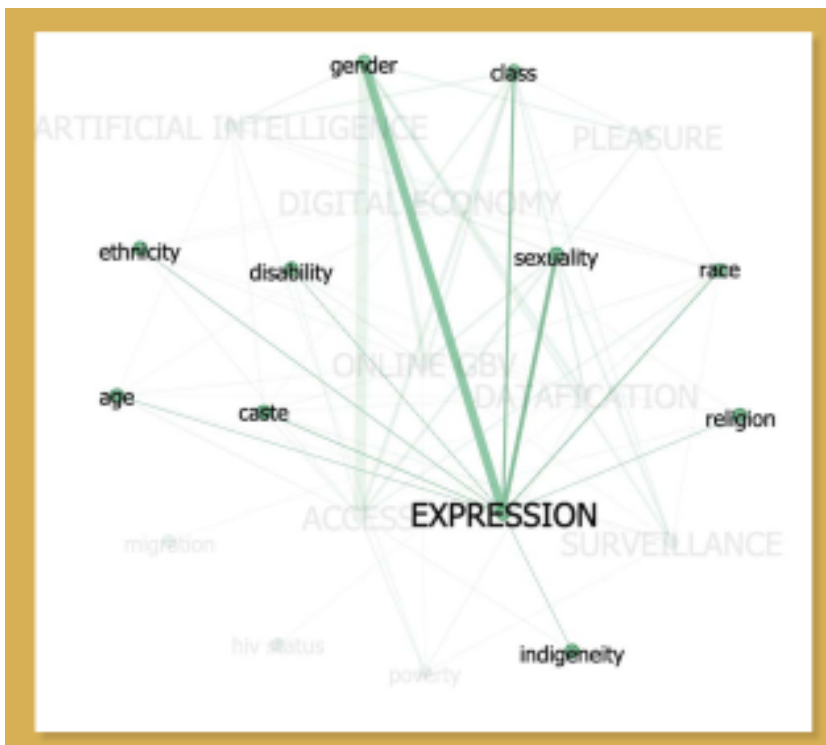


図 11：表現に関するフェミニストのインターネット研究での横断分析

この項では、以下の重要なテーマについて議論する。

- フェミニスト的な表現アプローチとは？
- 表現に関する経験
- 表現の犯罪化

表現に対するフェミニスト的アプローチとは何か？

van der Spuy と Aavriti によれば、「政治的、宗教的、性的表現を含むあらゆる種類の表現のための新しい公共圏またはプラットフォームを開くための ICTs の可能性はかなり議論の余地がある」⁵²。表現のいくつかの側面は、表現の犯罪化や女性、LGBTIQ+人、保守政権の下で生きる人などが規範を覆すためにネットを利用する様々な方法などが、フェミニスト研究から明らかになってきた。オンラインでの表現に対するフェミニスト的アプローチは、ジェンダーや性的表現を含む表現が様々な形の暴力（オンラインとオフラインの両方）によって制約される方法を理解しようとし、コミュニティを求めつながりを構築するための表現の重要性に注目し、性、セクシャリティ、性的指向、ジェンダー表現に関する法律や政策決定に対して批判的分析を提供しようとするものである。それは「私たちの物語と生きた現実の拡大や 制限なき表現、そして私たちの自由、主体性、欲望に対する国家や非国家のアクターの様々な取り組みに対する抵抗と闘いを最優先する」⁵³のだ。

表現体験

- 「セクシュアリティにまつわる表現はリアクションを加速させる。」⁵⁴これらのリアクションは喜び、コミュニティ、アクティビズムなどを含むことができるが、反動、暴力、検閲、自己検閲などを提示することもできる。
- これらのリアクションはしばしばそのようなリアクションが行われるのと同じプラットフォーム経済によって媒介され、そして／もしくは利用される。⁵⁵
- 調査に参加したシスやトランスの女性やノンバイナリーの人たちは皆、自分自身としてインターネットに参加することは傷つけられるリスクがあること、そして公的・政治的な生活においてオンラインで自分を表現することは常に社会の期待や文化的価値に基づいて

52 van der Spuy, A., & Aavriti, N. (2018). Op. cit.

53 <https://feministinternet.org/en/expression>

54 Datta, B., et al. (2017). EROTICS South Asia exploratory research: Sex, rights and the internet. Association for Progressive Communications. <https://www.apc.org/en/pubs/erotics-south-asia-exploratory-research-sex-rights-and-internet>

55 KRYSS Network. (2021). Op. cit.

形成され、それを通して見られるのだということを共通して述べている。ブラジルの研究⁵⁶も同様の見解を示しており、「女性の劣等感をめぐる考え方が支持され強化されるのは、文化的・社会的な領域の中なのだ」と述べている。

- インターネットを規制し、オンライン上での侵害に対する救済を求めるために法律や国家を利用することには、「法と道徳の間の緊張」があり、フェミニスト⁵⁷の断層が存在する可能性を示している。オンラインにおける表現の自由について裁判所に訴えることは、結局のところ女性を「国家統制の主体」にすることになるかもしれない。⁵⁸

- オンライン表現には、ジェンダーとセクシュアリティが、私たちに付与されるかもしれない硬直したアイデンティティを抜け出し、代わりに「両義的に見える」可能性がある。

59

- 暴力と表現の結びつきは、フェミニストのインターネット研究においてもっと考慮される必要がある。⁶⁰

表現の犯罪化

- オンライン上の表現の自由を規制するために、オフラインの法律と同様に、すべての性的表現を「わいせつ、不道徳、下品」と解釈する別の法律が制定・適用されることがしばしば見られる。⁶¹

- 表現の自由を守るための法律や規制が、結局は検閲や沈黙、さらには犯罪に利用されてしまうことも少なくない。人種の横断は特に重要である。⁶²

56 Matos, C. (2017). New Brazilian feminisms and online networks: Cyberfeminism, protest and the female 'Arab Spring.' *International Sociology*, 32(3), 417-434. <https://openaccess.city.ac.uk/id/eprint/16531>

57 Bhandari, V., & Kovacs, A. (2021). Sex Got to Do with It? Mapping the Impact of Questions of Gender and Sexuality on the Evolution of the Digital Rights Landscape in India. SSRN. https://papers.ssrn.com/sol3/papers.cfm?abstract_id=3769942

58 Ibid.

59 El Wazze, S. (2017). Identities Reconfigured, Online Dating Apps, and Incrimination: A Case of the Egyptian Crackdown and the Lebanese Tinder. *Kohl: a Journal for Body and Gender Research*, 3(2), 196-204.

60 Patrino, S. (2017). Pornohealing: Pornography as a healing process for individuals with a history of sexual violence. *Kohl: a Journal for Body and Gender Research*, 3(2), 216-231. <https://kohljournal.press/pornohealing>

61 Body & Data. (2020). Unshackling Expression: A study on criminalisation of freedom of expression online in Nepal. Association for Progressive Communications. <https://www.apc.org/en/pubs/unshackling-expression-study-criminalisation-freedom-expression-on-line-nepal>

62 Aqsa, A. (2020). Unshackling Expression: A study on online freedom of expression in Indonesia. Association for Progressive Communications.

- フェミニストのインターネット研究では、GBVと表現、特に性的表現の犯罪化との間に重要な関連性があることが指摘され続けている。⁶³
- 法律が性的表現について進歩的な立場を取る場合でも、同意や尊厳よりも言論の自由や表現の自由という観点から行われる。⁶⁴
- 新しいオンライン文化の中で、特に社会階級との関係で、表現がどのように顕在化し、犯罪化されるかを研究し理解するフェミニストの必要性が高まっている[65]。⁶⁵

<https://www.apc.org/en/pubs/unshackling-expression-study-online-freedom-expression-indonesia>

63 Datta, B., et al (2017). Op.cit.

64 Gurumurthy, A., Vasudevan, A., & Chami, N. (2019). Op.cit.

65 ARROW. (2020). ARROW for Change: The Right to Freedom of Speech and Expression. <https://arrow.org.my/publication/arrow-for-change-the-right-to-freedom-of-speech-and-expression/>

快楽

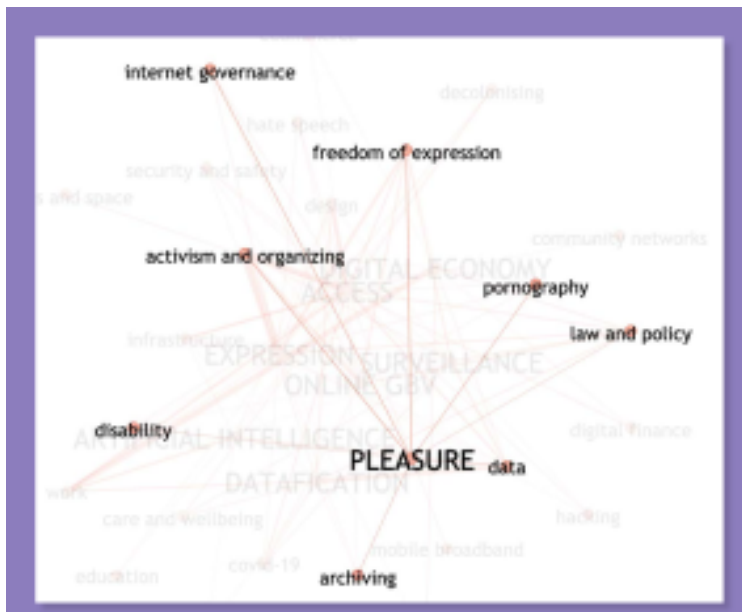


図 12 快楽のテーマに関連するフェミニストのインターネット研究テーマ



図 13：快楽に関するフェミニストのインターネット研究での横断点分析

この項では、以下の重要なテーマについて議論する。

- 快楽に対するフェミニスト的アプローチとは何か？
- インターネット上、およびインターネットを通じた快楽
- インターネット政策の議論における快楽の位置づけ

快楽に対するフェミニスト的アプローチとは何か？

この白書は、快楽を横断的なテーマとして理解しつつも、分析の中で独立したスペースを設けている。快楽に対するフェミニスト的アプローチは、商品としての快楽や願望としての快楽といった新自由主義的資本主義の概念化とは根本的に異なるものである。フェミニストのアプローチは快楽を、経済的、性的、生殖的、障害、データ、デザインなど、正義

の概念の中心であり、私たちが本来経験する権利があるものとして認識する。例えば、快樂を中心に据えることは、デジタルセキュリティへのアプローチを再考することになる。

「セキュリティはあなたを小さなものにし、快樂は拡大する。快樂の観点からセキュリティについてどう考えるか。」⁶⁶言い換えれば、アクセス、表現、インフラ、セキュリティなど、インターネットの様々な側面を快樂の枠組みでアプローチすることは、人々を単なる経済的主体に、あるいは彼らが持つ多くのアイデンティティーのうちのたったひとつに還元するのではなく、思考や政策をより広く、想像的なものにするようになるのだ。

インターネット上の、そしてインターネットを通じた快樂

- インターネットは欲望、憧れ、アイデンティティを再構成し、「取り締まりが厳しいオフラインの世界から離れた空間で生活を構築」する可能性を持っている。⁶⁷

- 障害を持つ人を含む女性やクィアの人々の中には、「社会的不承認」「活動家としての信用喪失」「判断のリスク」のために、特にセクシャリティに関連した快樂の経験について話し合ったりオープンにすることに違和感がある。⁶⁸

- 公共空間における快樂はプロテスト行為の可能性がある。⁶⁹

- 快樂、遊び、楽しみに関するフェミニストのヴィジョンと実践は、「オンラインでの性的不服従」であり、「テクノレジスタンスのフェミニスト戦略」となりうる[70]。⁷⁰

インターネット政策の議論における快樂の位置づけ

66 van der Spuy, A., & Aavriti, N. (2018). Op. cit.

67 El Wazze, S. (2017). Op. cit.

68 Kayastha, S., & Pokharel, M. (2020). Beyond Access: Women and queer persons with disabilities expressing self and exploring sexuality online. *Body & Data*.

<https://files.bodyanddata.org/nextcloud/index.php/s/etpDJAS7w7Poi3B#pdfviewer>

69 Jha, S. (2017). Gathering Online, Loitering Offline: Hashtag Activism and the Claim for Public Space by Women in India through the #whyloiter Campaign. In S. Jha & A. Kurian (Eds.), *New Feminisms in South Asia*. Routledge.

70 Shokooh Valle, F. (2020). Turning fear into pleasure: feminist resistance against online violence in the Global South. *Feminist Media studies*, 21(4), 621-638.

<https://www.tandfonline.com/doi/abs/10.1080/14680777.2020.1749692?journalCode=rfms20>

- 快楽はほとんどの場合、「政策や意思決定の場においてめったに発せられることのない用語や考え方」⁷¹であるが、スティグマ、保守主義、快楽の商品化に対する不快感によってしばしば軽視され、快楽が大目にみられているかのように思わせることもある。
- インターネット上の政策空間において、暴力や被害よりも快楽や同意に関する議論はかなり少なく、「暴力や被害への焦点を否定することなく、セクシュアリティや自己表現に関するよりポジティブなコンテンツを作成する」必要性がある。⁷²

71 Perera, S. (2019, 27 June). Finding the pleasure point in internet policy spaces. GenderIT.org. <https://www.genderit.org/feminist-talk/finding-pleasure-point-internet-policy-spaces>

72 Best Practice Forum on Gender and Access. (2020). Gender at the Internet Governance Forum: Final BPF output report. https://www.int-govforum.org/multilingual/index.php?q=filedepot_download/5004/2371

オンライン GBV



図 14：オンライン GBV というテーマに関連するフェミニストのインターネット研究テーマ

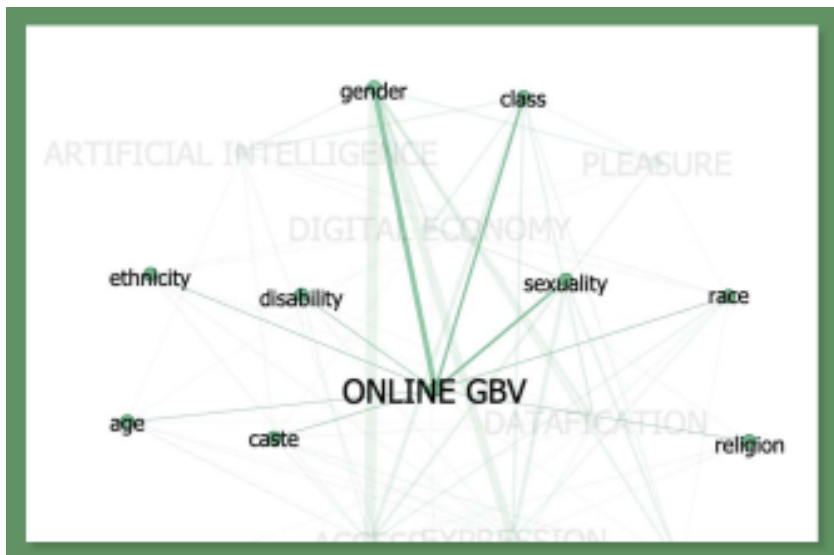


図 15：オンライン GBV に関するフェミニストインターネットリサーチにおける横断分析

本節では、以下の重要なテーマについて議論する。

- オンライン GBV に対するフェミニスト的アプローチとは何か？
- オンライン GBV とアクセス、表現、快楽の関連性
- オンライン GBV に対する国家とプラットフォームの対応
- オンライン GBV に対するフェミニストの対応

オンライン GBV に対するフェミニスト的アプローチとは何か？

インターネットのフェミニスト原則は、オンライン暴力は「サイバーストーキング、ハラシメント、女性差別的言論など[...]電話、インターネット、ソーシャルメディアプラットフォーム、電子メールなどの情報通信技術（ICTs）の使用によって、部分的または全面的に、実行、教唆または激化するGBVの行為を包含する」と述べている。「フェミニスト的アプローチは、そのような暴力がオフラインや地上で起こる暴力と同じ連続体にあることを認識し、オンラインGBVに説明責任と正義に対する同じ種類の重要性、緊急性、必要性を置く」⁷³。オンラインGBVに対するフェミニストアプローチは、国家とインターネットプラットフォームにこの問題に取り組むよう求めるが、同時に、新自由主義国家と資本主義プラットフォームがこの問題の一因であることを認識する。暴力に対するフェミニスト的アプローチは、女性とLGBTIQ+の人々の権利と自由を取り戻すことに目を向け、快楽と連帯を中心に据えている。

オンラインGBV、アクセス、表現、喜びの間のリンク

- 「暴力の連続性は、オンラインとオフラインの空間の間のギャップを曖昧にし、それによってオンラインで始まった暴力はオフラインで継続することができ、その逆もしかりである。」⁷⁴

- 「自らのセクシュアリティを明確にすること、あるいはセクシュアリティをめぐる立場をとることは、攻撃や復讐がいつでも実行できる危険な海域に入ることである。」⁷⁵

- 「女性や少女に対するオンライン上の暴力形態は、彼女たちの主体性を受け入れたがらないことから生じている。」⁷⁶

- 女性や少女に対するオンラインGBVは、COVID-19の期間も継続している。⁷⁷

- 女性やLGBTIQ+の人々が経験する暴力のオンライン・オフラインの連続は、表現とアクセスに影響を与える。「私は暗い路地を歩くのをやめたように、オンラインに関わるのをやめました。」⁷⁸

オンラインGBVに対する国家とプラットフォームの対応

⁷³ <https://feministinternet.org/en/principle/violence>

⁷⁴ Iyer, N., Nyamwire, B., & Nabulega, S. (2020). Op. cit.

⁷⁵ Datta, B., et al. (2017). Op. cit.

⁷⁶ Maskay, J., & Karmacharya, S. (2018). Online Violence Against Women: A continuum of offline discrimination. LOOM Nepal.

<https://taannepal.org.np/wp-content/uploads/2021/04/Online-Violence-Against-Women-2018.pdf>

⁷⁷ Flywell Malanga, D. (2020). Tackling gender-based cyber violence against women and girls in Malawi amidst the COVID-19 pandemic. African Declaration on Internet Rights and Freedoms Coalition. https://africaninternetrights.org/sites/default/files/Donald_Flywell-1.pdf

⁷⁸ Ikhtyar African Feminist Collective. (2020). Where's the party at? Ikhtyar African Feminist Collective. <https://www.ikhtyar.org/wheres-the-party-at-2/?lang=en>

フェミニスト研究は、オンライン GBV への取り組みに対する国やプラットフォーム企業の対応と非対応を文書化し分析し、ひいてはインターネット上の女性や LGBTIQ+ の人々の権利擁護に関するフェミニストアドボカシーの形成に不可欠な証拠資料を構築するものである。

- ハラスメントに関する法律と法執行の強化は国家による好ましい手段であり続ける一方で、「適切な規制と表現の自由の抑圧の間には際どい線が存在する。」⁷⁹

- 「法の言説空間はフェミニストの正義のヴィジョンに対して部分的な解決策しか示さない」が、法は「非常に高い象徴的な意義」を持ち続け、オンライン GBV の生存者にとってもアドボカシーの手段であり救済の手段であり続けている。⁸⁰

- フェミニストのインターネット調査でも、法律は主にヘテロ規範的であり、クィアの人々が直面する問題を排除したり犯罪化したりする、と指摘されている。

- オンライン GBV に対するプラットフォームの対応は、国家の対応と同様に不十分であり、プラットフォーム企業にユーザーへの説明責任を負わせる法的義務がない、あるいはほとんどないことが多いことを考えると、おそらくさらに失望を感じる。

- インターネットプラットフォームは、オンライン GBV を含むアプリカや他のグローバルサウスユーザーが直面する問題への対処の欠如を示し、その結果、プラットフォーム上のオンライン GBV の事例についてユーザーによる報告率が非常に低くなっている。⁸¹

- 「Facebook のスタッフは、現地チームの多様性の欠如を含む多くの理由によって、カースト、宗教、ジェンダー/クィアのマイノリティのニーズに対して必要な文化的能力とリテラシーをしばしば欠いている。」⁸²

- 「仲介者が法律によってゲートキーパーとして扱われるとき、自分たちの責任を減らすために、彼らは過剰に検閲する」⁸³しかし、このホワイトペーパーで記録されている人権擁護者、ダリット人、LGBTIQ+ 人、セックスワーカーの経験が示すように、プラットフォームはとにかく特定の集団によるコンテンツを恣意的に「過剰検閲」しがちである。

79 Iyer, N., Nyamwire, B., & Nabulega, S. (2020). Op. cit.

80 Gurumurthy, A., Vasudevan, A., & Chami, N. (2019). Op. cit.

81 Ibid.

82 Soundararajan, T., Kumar, A., Nair, P., & Greely, J. (2019). Facebook India: Towards the Tipping Point of Violence: Caste and Religious Hate Speech. Equality Labs.
<https://www.equalitylabs.org/facebookindiareport>

83 Vasudevan, A. (2019). Taking Down Cyber Violence: Supreme Court's Emerging Stance on Online Censorship and Intermediary Liability. *Economic & Political Weekly*, 54(2).

- 商業コンテンツのモデレーターが直面する課題も、仕事の不安定さ、攻撃的・暴力的コンテンツの消費による二次的トラウマ、心理社会的サポートの欠如、劣悪な労働条件、福利厚生欠如など、フェミニストの問題を抱えている。⁸⁴

オンライン GBV に対するフェミニストの反応

- 現在、より多くのフェミニストが権利侵害への対応としての犯罪化や刑事司法の限界を議論し、司法 justice を理解し、アクセスし、経験する代替的な方法を強調し、考え、作り出している。⁸⁵

- 必要なのは、「通報することを超えた、生存者にとっての救済の模索、あるいは正義 justice とは何かについての、より確固とした理解」である。⁸⁶

- 利用可能な限られたデジタル・セキュリティ・ツールでさえ、ケアと連帯のコミュニティの役割を考慮することなく、女性が自分で身を守ることを期待し、「そもそも一次加害者と二次加害者が暴力的に行動するのを防ぐことを目的とした介入はほとんど存在しない。」⁸⁷

- 仲間は、自分自身が攻撃を受けるかもしれないので、オンライン GBV を経験している人を支援することをためらうことがよくあり、その結果、オンライン GBV に対する部外者の介入の可能性を低下させることがある。しかし、オンライン・フェミニストの組織化は、これらの躊躇に抵抗し、共に立ち上がるための方法となりうる。⁸⁸

- フェミニストのインターネット研究そのものが、オンライン GBV に対するフェミニストの応答になり得る。フェミニストリサーチの方法論は、オンライン GBV の生存者が経験を共有し、互いにつながるための空間と機会を創出することができる。⁸⁹

84 Roberts, S. T. (2019). Behind the Screen. Yale University Press.

85 Abdelaty, S. (2020). Beyond Criminalization: A Feminist Questioning of Criminal Justice Interventions to Address Sexual and Reproductive Rights Violations. Realizing Sexual and Reproductive Justice (RESURJ). <https://resurj.org/wp-content/uploads/2020/12/ENGLISH-Beyond-Criminalization-A-Feminist-Questioning-of-Criminal-Justice-Interventions-to-Address-Sexual-and-Reproductive-Rights-Violations.pdf>

86 Sim, K. (2020, 12 June). Can we address sexual violence by collecting more data? Deep Dives. <https://deepdives.in/can-we-address-sexual-violence-by-collecting-more-data-5c49212b1c31>

87 Iyer, N., Nyamwire, B., & Nabulega, S. (2020). Op. cit.

88 Ikhtyar African Feminist Collective. (2020). Op. cit.

89 BlueLink Foundation. (2020). Op. cit.

- 監視とケア、プライバシーの間の力学。
- 検閲、セキュリティなど

監視に対するフェミニスト的アプローチとは？

このマッピングは、過去5年間のフェミニスト研究が、様々な方法で監視をめぐる懸念に取り組んでいることを示している。フェミニスト的アプローチは、監視を「女性の身体、言論、活動を統制し制限するために使用される家父長制の歴史的道具」⁹⁰として認識し批判する。監視に対するフェミニスト的アプローチは、プライバシー、監視、暴力および関連する懸念が多様な状況において人々にどう影響するか、社会と国家の監視の違いと関連、異なる行為者による監視がその監視対象によってどのような倒錯があるかを理解しようとするものだ。また、昨年は、COVID-19への対応として、疾病監視の持つ意味について、フェミニストによる研究や分析が行われた。

監視を打破し抵抗する

- 「監視の影響は決して個人的なものではなく、構造的なものである」、したがって監視に対するフェミニストの反応は単なるプライバシー保護を越えて、「強力なテクノロジーを開発し実行する人々の側に透明性と説明責任」を求めなければならない。⁹¹
- 女性やクィアの人々がオンラインで監視を覆す方法には、匿名性、プラットフォームで複数のアカウントを作ること⁹²、自撮りなどを通じて「デジタル・イザット」（尊敬、名誉）の概念に挑戦することなどがある。
- 監視に抵抗し、破壊することはまた、フェミニストや女性の権利の組織化や活動において非常に重要な部分となっている。⁹³
- 「監視行為に対する抵抗は、横断的な方法で掘り下げられる必要がある」⁹⁴とし、誰が監視に抵抗できるのか、誰がそれを容認せざるを得ないのか、などの問題を提起している。

COVID-19 と監視

90 <https://feministinternet.org/en/principle/privacy-data>

91 Kovacs, A. (2017). Op. cit.

92 Salman, A. (2021, 27 May). Queer on the internet: The politics of visibility. GenderIT.org. <https://genderit.org/feminist-talk/queer-inter-net-politics-visibility>

93 Tan, J. (2017). Digital masquerading: Feminist media activism in China. *Crime, Media, Culture*, 13(2), 171-186. <https://doi.org/10.1177%2F1741659017710063>

94 Rehman, Z. (2020, 6 May). Gendered Surveillance and Feminist Resistance in Pakistan. Medium. https://medium.com/@zoya_rehman/gendered-surveillance-and-feminist-resistance-in-pakistan-a27aced8f7c0

監視は、世界中の政府が COVID-19 に対処する上で重要な戦略となっている。したがって、国家や企業の監視に対するフェミニストの批判は、公益や公共の安全という意味合いを持つ疾病監視と闘うという、やっかいな道を通らなければならない。

- 「データはパンデミック時の安全性についての洞察を提供することができるが、それ自体で人々を安全に保つことはできない。」⁹⁵
- 監視がパンデミック対応の中心となったとき、ケアと相互信頼が欠落する。そして「病気の監視は身体の監視と混同されるべきではない。」⁹⁶
- COVID-19 の間に監視が強化され正当化されたことで、障害を持つ女性に対する保護主義的で統制的なアプローチが深刻化した。⁹⁷
- 「コロナウイルスが一般市民にとって脅威でなくなった後も、大量のデータ収集が規範として受け入れられる可能性がある」⁹⁸し、おそらくバイオ権力と家父長制権力の結びつきを強めるだろう。

監視とケア、プライバシー、検閲、セキュリティなどの間の力学。

- 多くの研究者が、国家、企業、市民社会、その他の機関や個人がどのように監視を正当化するのか、その力学と断層を検証し、それに挑戦するために何が必要なのか問いかけている。
- 「バイオメトリクスの使用における機能忍び込みのリスク」⁹⁹が存在する可能性があり、疎外された人々のグループは、健康や他の必須サービスへのアクセスが潜在的な監視に結びつけられると困難な立場に立たされる可能性がある。
- 「セックス・ワークを積極的に取り締まり、犯罪化するオンライン・テクノロジーは国家-企業の資金による監視のより広範なシステムに資する」、これは監視、コンテンツ・モデレーション、プラットフォーム資本主義間の点をつなぐものである。¹⁰⁰

95 Radhakrishnan, R. (2020). Op. cit.

96 Ibid.

97 Rising Flame & Sightsavers. (2020). Neglected and Forgotten: Women with Disabilities During the Covid Crisis in India. <https://rising-flame.org/project/neglected-and-forgotten-women-with-disabilities-during-covid-crisis-in-india>

98 Yu, A. (2020). Digital surveillance in post-coronavirus China: A feminist view on the price we pay. *Gender, Work & Organization*, 27(5), 774-777.

<https://onlinelibrary.wiley.com/doi/full/10.1111/gwao.12471>

99 KELIN & Kenya Key Populations Consortium. (2018). "Everyone Said No": Biometrics, HIV and Human Rights: A Kenya Case Study. KELIN.

<https://www.kelinkenya.org/everyonesaidno>

100 Blunt, D., Coombes, E., Mullin, S., & Wolf, A. (2020). Posting Into the Void: Studying the Impact of Shadowbanning on Sex Workers and Activists. *Hacking//Hustling*.

- フェミニストの課題は、「監視に対する全体的な抵抗において、横断的なコミットメントを証明する歴史認識を持った視点を採用すること」である。¹⁰¹

<https://hackinghustling.org/posting-into-the-void-content-moderation>

101 Rehman, Z. (2020, 6 May). Op. cit.

データ化



図 18：データ化というテーマに関連するフェミニストのインターネット研究テーマ

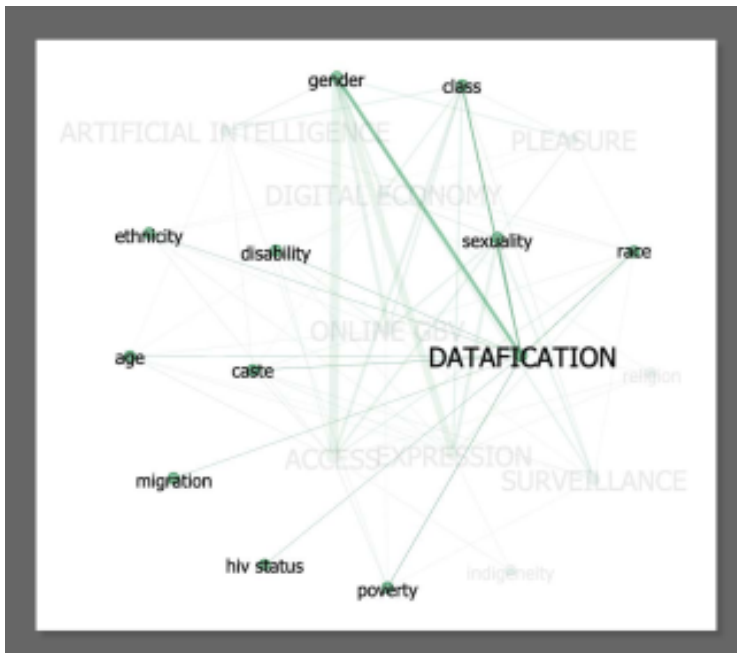


図 19：データ化に関するフェミニストインターネットリサーチにおける横断分析

この項では、以下の重要なテーマについて議論する。

- データおよびデータフィクションに対するフェミニスト的アプローチとは何か？
- データと同意に対するフェミニスト的アプローチ
- データ・ジャスティスとデータ・フェミニズム
- データフィクションに対するフェミニストの視点
- データ保護とデータ主権

データとデータ化に対するフェミニスト的アプローチとは何か？

ここ数年、データやデータ化の問題に対して、フェミニストや横断的な関わり合いや関与が多く見られ、このセクションでは、これらから生まれたいくつかの重要な概念について考える。これらの概念は、フェミニストのインターネット研究が政策やガバナンスの決定に影響を与え、私たち自身のスペースやインフラを想像し創造しようとする際に、ツールやフレームワークと同様に思考方法を提供するものである。データとデータ化に対するフェミニスト的アプローチは、データの性質を調べ、データの実体からの乖離に絶えず抵抗する。それは、データとデータ化の結果、有害なものや可能な利益の両方が、これらの結果に直面する個人とコミュニティによって具体化されるという理解が中心となっている。フェミニスト的アプローチは、自己監視や「数値化された自分」の展開（ビッグデータの利用を含む）が人権に及ぼす影響を理解し、アルゴリズムによる意思決定における差別を解明し、データに関するフェミニストの実践を導入しようとするものだ。それは「プライバシーに対する権利とあらゆるレベルでの個人データとオンライン上の情報に対する完全なコントロールに対する権利」を承認するものだ。¹⁰²

データと同意に対するフェミニスト的アプローチ

- 「特に性的関係における同意に関するフェミニストの視点」¹⁰³は、データの収集前や収集に行うべき変更、データの許容される使用に対するより微妙で詳細なアプローチ、弱者や周縁化されたグループの人々のデータに関連して考慮すべき事柄を導くことができる。
- データ収集における説明責任と透明性は、国家だけでなく、開発アクターやNPOのデータとの関わりにおいても求められる。¹⁰⁴
- データと同意に対するクィア・フェミニストのアプローチは、「私たちのデータ機関とのいくつかのやりとりの唯一の要件として同意に対する個人主義的アプローチを用いることの深刻な限界」¹⁰⁵を示し、同意を実行するものとして捉え、それが積極的で、明確で分かりやすく、情報を与えられ、自由に与えられ、具体的で、撤回でき、継続的であるよう求めている。

¹⁰² <https://feministinternet.org/en/principle/privacy-data>

¹⁰³Kovacs, A., & Jain, T. (2020). Informed Consent – Said Who? A Feminist Perspective on Principles of Consent in the Age of Embodied Data. Data Governance Network. <https://internetdemocracy.in/reports/informed-consent-said-who-a-feminist-perspective-on-principles-of-consent-in-the-age-of-embodied-data>

¹⁰⁴ KELIN & Kenya Key Populations Consortium. (2018). Op. cit.

¹⁰⁵ Peña, P., & Varon, J. (2019). Op. cit.

データジャスティス、データフェミニズム

- 「データは、その様々な形態において、理想的な転換と公正な社会を実現するフェミニスト運動において重要な役割を果たすことができる」が、そのためには、植民地時代の遺産と権力の不均衡に抵抗し、「データが透明で説明責任を果たし、フェミニストの原則に沿った方法で共有されるようにしなければならない。」¹⁰⁶
- データに対するフェミニスト的なアプローチは、資本主義的で市場に基づいたデータ概念を超えて、「主体性と社会性のこの危機を、コミュニティとつながりのラディカルな実践を通して再び構想することを要求するだろう。」¹⁰⁷
- 「データフェミニズムの出発点は、データサイエンスにおいてほとんど認識されないものである：権力は世界において平等に分配されていない」¹⁰⁸、そしてそれは「権力を検証し、権力に挑戦し、感情と身体性を高め、二項対立と階層を考え直し、多元性を受け入れ、文脈を考慮し、労働を可視化」しようとするものである。
- データ植民地主義、データ化、そして結果として生じる権力とジェンダーの力学は、「主にその脆弱な経済、貧しいインフラ、不十分な司法制度のために、アフリカにとって重要である。」¹⁰⁹
- インターネットアクセス/インフラと、アフリカの接続されていない人々が「潜在的なデータ」とみなされることとの間に関連性がある。タマレは、データジャスティスを中心に据えた「アフロ・フェミニストのオルタナティブ」を構築し形成することの重要性を指摘している。¹¹⁰

データ化に対するフェミニストの視点

- データ化はしばしば、人と私たちの世界を、私たちについて収集されたデータの総体として理解することを促す。フェミニストの研究者、学者、活動家は、私たちに関するデータから何が見逃され、隠され、解明されないかを考えることの重要性を指摘し、データ化の考え方に異議を唱えている。

106 Iyer, N., Chair, C., & Achieng, G. (2021). Afrofeminist Data Futures. Pollicy. <https://pollicy.org/wp-content/uploads/2021/09/Afrofeminist-Data-Futures-Report-ENGLISH.pdf>

107 Gurumurthy, A., & Chami, N. (2016, 31 May). Data: The new four-letter word for feminism. GenderIT.org. <https://www.genderit.org/articles/data-new-four-letter-word-feminism>

108 D'Ignazio, C., & Klein, L. F. (2020). Data Feminism. The MIT Press.

109 Tamale, S. (2020). Decolonization and Afro-Feminism. Daraja Press.

110 Ibid.

- データ化と関連するデータの実務は、体現された人間性に有害な影響を与える可能性がある。¹¹¹
- 「私たちの身体と身体に関する情報との間に引く線は、徐々に消え始めている」¹¹²し、データ保護は、実体のない情報に関する従来の理解を超えて、データを実体のあるものとして理解する必要がある。
- 民間、学術、非営利団体による研究においてデータ化が行われる際には緊張関係があり、研究を通して自分たちの生活がデータ化される方法に疑問を持ち異議を唱える先住民コミュニティからのガイドラインや実践が提案されている。¹¹³

データ保護とデータ主権

- 国家によるデータ保護への取り組みはしばしば主権や領土と密接に絡み合っており、どちらも女性やLGBTIQ+の人々、移民や難民、無国籍の人々など、社会から疎外された人々の権利に影響を与える可能性がある。
- フェミニスト研究は、データ主権とデータ保護の議論を、データ主体の権利という観点から組み立てる。
- データ保護の枠組みがジェンダーに対応するためには、その設計と実施は「私たちが住む社会のジェンダーの現実を考慮し、デジタル開発に向けた競争の中で不正義が再現されないようにする」必要がある。¹¹⁴
- デジタル化された社会福祉プログラムに関して言えば、女性を含む受益者は、「プライバシーと社会的保護、食料安全保障、または結局のところ貧困を緩和するが、除去することはできない便益のどちらかを選ぶ」必要はないはずだ。¹¹⁵潜在的便益にもかかわらず、デジタル識別システムは「配慮と社会正義の視点なしに実施されると、社会内の危害と差別を拡大する可能性がある。」

111 Kovacs, A., & Jain, T. (2020). Op. cit.

112 Kovacs, A. (2018, 12 January). Playing the Aadhaar Card. India Today.
<https://www.indiatoday.in/magazine/cover-story/story/20180122-aadhaar-card-privacy-uidai-1131377-2018-01-12>

113 Okune, A. (2020). Open Ethnographic Archiving as Feminist, Decolonizing Practice. Catalyst: Feminism, Theory, Technoscience, 6(2), 1-24.
<https://catalystjournal.org/index.php/catalyst/article/view/33041/26853>

114 Chair, C. (2020). Our Data, Our Rights: A feminist review of AI, privacy and data protection to enhance digital rights. My Data Rights & Mozilla.
<https://mydatarights.africa>

115 InternetLab. (2020, 13 May). Brazil's Bolsa Familia Program: the impact on privacy

-特に欧州連合の一般データ保護規則（GDPR）をきっかけに世界中で多くのデータ保護の法的枠組みが出現する中、フェミニストは「曖昧な言語と定義」¹¹⁶、中小企業への影響、インターネット上の個人データにのみ適用されるGDPRに準拠する枠組みを他の国に強制的に採用することによる新植民地化効果といったこれらの枠組みに対する多くの必要な批判や分析をもって対応している。¹¹⁷

- フェミニストによる批評¹¹⁸は、国家がGDPRの遵守を超えて、個人対市場から個人とコミュニティ対抑圧の構造と抑圧のシステムへとシフトするボトムアップのデータ保護フレームワークを作成する必要性を示している。

- データ主権はそのようなシフトに不可欠であり、「ハイテク企業の覇権の現代的形態」を形成し強化するようなデータ植民地主義に対抗し抵抗するための「有力な枠組み」[119]¹¹⁹だ。

- 人々の権利を促進するデータ主権の意味のある概念と実践は、データを「単にそこにあり、採掘する準備が整っている」単なる資源として扱うことから、「私たちの身体の延長であり、その一部でさえある」と考えるようにシフトする必要があるだろう[120]。¹²⁰

116APC. (2018). APC welcomes the EU's General Data Protection Regulation, calls for stronger privacy protections globally. Association for Progressive Communications. <https://www.apc.org/en/pubs/apc-welcomes-eus-general-data-protection-regulation-calls-stronger-privacy-protections-globally>

117Aavriti, N. (2018, 28 March). Making privacy a constitutional right: Interview with Y.K. Chang. GenderIT.org. <https://www.genderit.org/feminist-talk/making-privacy-constitutional-right-interview-y-k-chang>

118 Body & Data. (2019). Policy paper: Information Technology (IT) Bill 2019 from a feminist lens.

<https://files.bodyanddata.org/nextcloud/index.php/s/RrYWa8T3jWjwsQp#pdfviewer>; Digital Rights Foundation. (2020). Digital Rights Foundation's Legal Analysis of the 2020 Personal Data Protection Bill. <https://digitalrightsfoundation.pk/digital-rights-foundations-legal-analysis-of-the-2020-personal-data-protection-bill>; Chair, C. (2020). Op. cit.

119 Kovacs, A., & Ranganathan, N. (2020). Data sovereignty, of whom? Limits and suitability of sovereignty frameworks for data in India. Data Governance Network.

<https://datagovernance.org/files/research/1606371623.pdf>

120 Ibid.

人工知能

図 20：人工知能のテーマに関連するフェミニストのインターネット研究テーマ

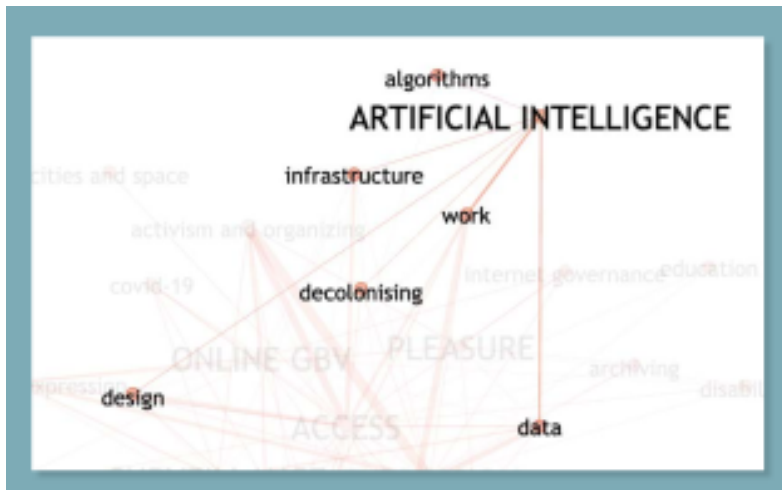
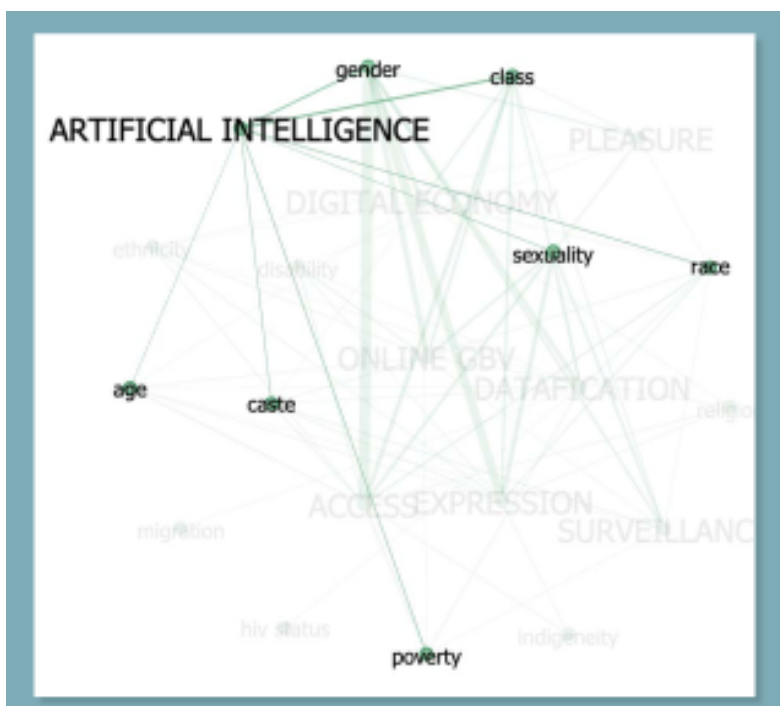


図 21：人工知能に関するフェミニストインターネットリサーチにおける横断分析



本節では、以下の重要なテーマについて議論する。

- AI に対するフェミニスト的アプローチとは何か？
- AI のジェンダリング
- アルゴリズムの公正さ

- AI ガバナンス
- AI を脱植民地化するためのフレームワーク

AI に対するフェミニスト的アプローチとは？

"AI "から見て、私たちは皆平等なのか？AI によって社会から疎外されたグループにはどのような機会と課題があるのか？社会から疎外されたコミュニティの社会正義¹²¹を確保するために何ができるのか？チェナイ・チェアは、AI に対するフェミニスト的アプローチの基本であるこれらの的確な問いを投げかけている。その他にも、誰が知性を定義するのか、どのような種類の知性があるのか、支配階級や資本家は AI を何のために利用し、悪用することができるのか、といった疑問もある。AI に対するフェミニスト的アプローチは、AI とビッグデータに関する唯一の「特効薬」の物語に挑戦し、アルゴリズムと AI によって引き起こされた被害に対する説明責任を求め、公共の利益のための AI の可能性を否定せず、それが現在私たちの世界の不平等と周縁化を複製する新自由主義の道具であることを警告し、AI の再構築と変革の方法を考え提案しながらアルゴリズムの決定論に対して闘うものだ。

AI のジェンダー化

-大衆文化におけるこれらの「女性 AI」の表現はセクシュアリティに重点を置いており、男性の主人公のために性的・感情的労働をすることを期待されているし、実際にそうしている。¹²²

- AI の開発におけるジェンダーの不均衡は、そのような「ジェンダー化された技術物語」の背後の理由として考えられる。¹²³世界的に見ると、AI 専門家のうち女性は 25% 未満である。¹²⁴

-概念としての AI のルーツは、その初期から男性的でヘテロ規範的であり、男性グループが AI の文脈における知能を定義し、誰が、どのような目的で使用し、どのような問題を解決するのかを決めるようになっている。[125]¹²⁵だから、AI を再構築することなく AI を

121 Chair, C. (2020). Op. cit.

122 Devlin, K., & Belton, O. (2020). The Measure of a Woman: Fembots, Fact and Fiction. In S. Cave, K. Dihal & S. Dillon (Eds.), AI Narratives: A History of Imaginative Thinking about Intelligent Machines. Oxford University Press.

123 Ibid.

124 World Economic Forum. (2021). Global Gender Gap Report 2021.

http://www3.weforum.org/docs/WEF_GGGR_2021.pdf

125 Anyoha, R. (2017, 28 August). The History of Artificial Intelligence. Science in the News. <https://sitn.hms.harvard.edu/flash/2017/histo-ry-artificial-intelligence>

フェミニストに拡大しようとする試みは、フェミニストが闘う制度的不平等という文脈では無駄であることが証明され得る。

アルゴリズム的公正

フェミニスト研究は、不公正なアルゴリズムやシステムを用いて行われた決定が、ジェンダー、人種、収入、階級などを理由に、すでに疎外されている人々をさらに疎外し、排除する結果になることを記録し、分析し、理論化するものである。これを補完するもので、同様に重要なのは、そのような決定、周辺化、排除をもたらすアルゴリズムや分類システムにおける既存および進行中の課題に取り組む研究である。

- グローバル・サウスを対象としたビッグデータシステムは、「包摂的資本主義 inclusive capitalism」の枠組みの中で、エンパワメントの道具として枠組みを作り、設計、配備される。「包摂性の代替モードは、デフォルトの新自由主義的アプローチを超えて追求されるべきである。」¹²⁶
- 機械学習アルゴリズムは、性別や人種に関しては精度が低く、このようなアルゴリズムや付随するデータセットの偏りを評価する必要がある。¹²⁷しかし、そのような不正確さを改善することは、短期的には有用であるが、AI が基づいており、強化されている権力構造に対処できないかもしれない。¹²⁸

AI ガバナンス

AI やアルゴリズムによる意思決定が、政府、企業、教育機関、医療機関などを通じて日常生活に浸透するにつれ、AI を統制するべきだという声が強まっている。

- AI ガバナンスに関する支配的な議論は、プライバシーやその他の人権侵害、仕事の未来、不透明な意思決定、差別をもたらす性別、人種、所得などに基づく社会的偏見の強化といった側面に焦点をあてている。

126 Arora, P. (2016). Bottom of the Data Pyramid: Big Data and the Global South. *International Journal of Communication*, 10.
<https://ijoc.org/index.php/ijoc/article/view/4297>

127 Buolamwini, J., & Gebru, T. (2018). Gender Shades: Intersectional Accuracy Disparities in Commercial Gender Classification. Conference on Fairness, Accountability, and Transparency. <http://proceedings.mlr.press/v81/buolamwini18a/buolamwini18a.pdf>

128 Peña, P., & Varon, J. (2019). Op. cit.

- AI ガバナンスに対するフェミニスト的なアプローチは、これらの支配的な物語がしばしば「新自由主義資本主義の中での AI の絡み合い、そしてこれが個人とコミュニティの生活機会にとって何を意味するのかを十分に扱っていない」点を提起している。¹²⁹
- AI へのフェミニストの関与は、AI ガバナンスにおける説明責任は、AI の修正にとどまらず、すべての国家が自分たちに影響を与える AI とアルゴリズムを精査する権利を持ち、AI を生み出し使用する国家と非国家の両主体に透明性を要求することを提起している。
- AI によってもたらされる課題と機会は、北半球と南半球を含めて様々であり、AI の説明責任のための拘束力のある規範的枠組みは、このような複雑さを考慮するスペースを作る必要がある。¹³⁰
- AI ガバナンスは、開発という文脈でも重要である。研究者は、「多くの人にとっての約束は、ビッグデータと AI が統計的測定を補強すること」¹³¹であるが、そのようなデータの能力は「社会における全ての人を公平に代表することには疑問があり、このデータから作成されたあらゆる解決策は不平等に展開される可能性を秘めている」ことを指摘している。

AI を脱植民地化するためのフレームワーク

- AI に対するフェミニスト的なアプローチは、AI の基礎となりそれを強化している権力構造を解体することを見据える。
- 「人権の枠組みさえも超えて、テクノロジーに対する脱植民地主義的・トランスフェミニスト的なアプローチは、代替的な未来を構想し、AI システムが展開されている一般的な論理を覆すための素晴らしいツールである。」¹³²
- AI プロジェクトやツールは、「エージェンシー、説明責任、自律性、社会正義、ノンバイナリーアイデンティティ、協力、分散化、同意、多様性、脱植民地主義、共感、セキュリティなどの価値に埋め込まれた脱植民地主義フェミニストの枠組みを通して評価することができる。」¹³³

¹²⁹ Gurumurthy, A., & Chami, N. (2019). Op. cit.

¹³⁰ Raval, N. (2019). Automating informality: On AI and labour in the global South. In A. Finlay (Ed.), Global Information Society Watch 2019: Artificial intelligence. APC, ARTICLE 19 & Sida. <https://giswatch.org/node/6202>

¹³¹ Comminos, A., Muller, E. S., & Mutung'u, G. (2019). Artificial intelligence for sustainable human development. In A. Finlay (Ed.), Global Information Society Watch 2019: Artificial intelligence. APC, ARTICLE 19 & Sida. <https://giswatch.org/node/6206>

¹³² Peña, P., & Varon, J. (2019). Op. cit.

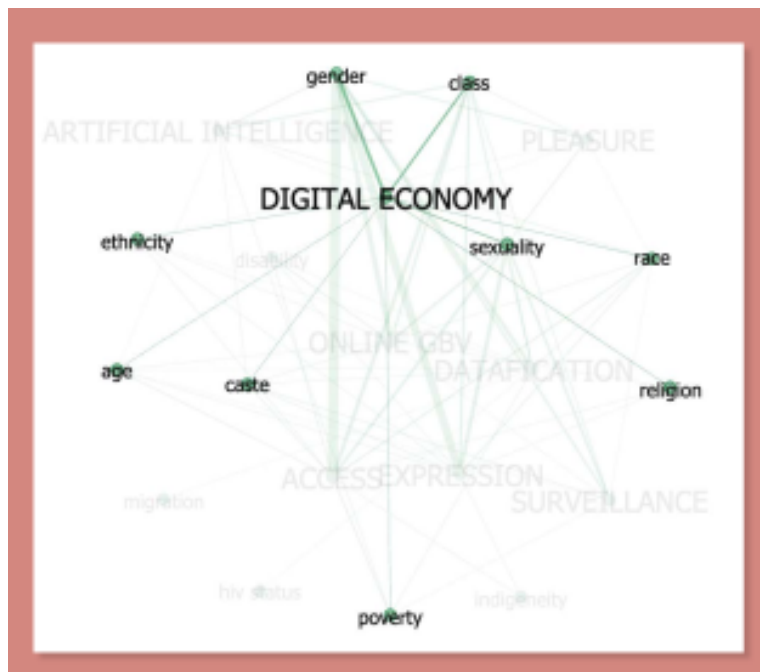
¹³³ Ibid.

デジタルエコノミー

図表 22 デジタル経済というテーマに関連するフェミニストのインターネット研究テーマ



図 23：デジタルエコノミーに関するフェミニスト・インターネット研究での横断分析



本節では、以下の重要なテーマについて議論する。

- デジタル経済に対するフェミニスト的アプローチとは？

- デジタル・エコノミーにおけるジェンダー平等
- 仕事のプラットフォーム化
- 無報酬の介護労働とインターネット
- セックスワークとインターネット
- フェミニストな未来の働き方

デジタル経済に対するフェミニスト的アプローチとは？

デジタル経済へのフェミニスト的アプローチは、「テクノロジーをさらなる私有化、利益、¹³⁴の企業支配へと駆り立てる資本主義の論理を問う」一方で、「協力、連帯、コモンズ、環境維持、開放性の原則に根差した経済力の代替形態」を建設的に創造することにコミットする。¹³⁵

「デジタル経済について、私たちの怒り、批評、賞賛、そして将来の研究のための豊かな領域は何であろうか。そして、これらの議論にグローバル・サウスからの視点をどのように持ち込むことができるだろうか。」¹³⁶これを受けて取り上げられた領域には、無報酬のデジタル労働、デジタルスキル、起業、プラットフォーム経済、テクノロジー使用による環境へのインパクトなどがある。これらの領域の多くや もっと多くの領域がフェミニストのインターネット研究者によって研究され、文書化され、再想定されていることは心強いことである。

デジタル経済におけるジェンダー平等

デジタル経済におけるジェンダーの不平等と格差は広く研究されているテーマであり、このセクションでは、そこから浮かび上がる重要な見解について説明する。

- 「経済関係や経済活動は、プラットフォームやデータ化された知性の出現によって再編されている。」¹³⁷そして、これは女性や他の疎外されたグループの人々に悪影響や課題をもたらす一方で、彼らにとってプラスの効果や機会を作り出しているのである。

¹³⁴ <https://feministinternet.org/en/principle/economy>

¹³⁵ Ibid.

¹³⁶ Faith, B. (2018, 31 January). Why we need a “Feminist Digital Economics”. GenderIT.org. <https://www.genderit.org/feminist-talk/why-we-need-%E2%80%98feminist-digital-economics%E2%80%99>

¹³⁷ Gurumurthy, A., Chami, N., & Alemany, C. (2019). Gender Equality in the Digital Economy: Emerging Issues. IT for Change. <https://it-forchange.net/gender-equality-in-the-digital-economy>

- 課題に対処し、機会を捉えるには、構造改革と「グローバルレベルからローカルレベルへの制度変革」が必要である。
- マイクロチップからサーバーファームまで、デジタル経済を支えるインフラは、水や食料安全保障などへのアクセスを危うくし、ひいては最も周縁化された人々の命や生活を脅かす「グローバルサウスの自然資源や共有財産資源の持続不可能な搾取」¹³⁸に基づいている。
- インフォーマルな仕事や 無報酬の労働はジェンダー化され、不可視化されており、インフォーマルな仕事や 無報酬の労働のデジタル化はデジタル経済においてもそのような仕事を不可視化する可能性がある。¹³⁹
- デジタル経済における仕事のフェミニスト的世界を再認識することは、ジェンダーの固定観念や根底にある社会的・文化的規範への取り組み、¹⁴⁰よりジェンダー的に細分化されたデータ、そして「国やサブナショナルレベルでの法的制度メカニズムを見直すための新しい考え方」¹⁴¹を含む。
- デジタル経済は、労働の概念そのものを再構築するフェミニストのフロンティアである可能性がある。「私たちは必ずしも『機械が人間に取って代わる』という話をしていてではなく、むしろ伝統的な仕事の役割を置き換えることで、人間の仕事を再認識することを求めているのです。」

労働のプラットフォーム化

労働はますますデジタル・プラットフォームを介して媒介され、組織化されるようになっており、フェミニスト研究者はこのことの意味を探っている。特に、協同組合のような他のモデルも台頭しているが、そのようなプラットフォームのほとんどが資本主義的、搾取的なビジネスモデルで運営されていることを考えると、なおさらである。

- 欧米の学者は、プラットフォーム化された仕事が約束する「柔軟性」は、そのような仕事に関わる様々なコストやルールを隠していると主張するが、この議論は、「非正規が横行し」¹⁴²、テクノロジーが市場の一部となる機会を提供するグローバルサウスにおけるプラットフォーム化した仕事について考えるとき、それほど単純なものではない。
- Fiverr、Upwork、Amazon Mechanical Turkといったプラットフォームにおけるデジタル労働のアウトソーシングの市場としてアフリカへの需要が高まっているとしても、それ

138 Ibid.

139 Lukács, G. (2020). *Invisibility by Design: Women and Labor in Japan's Digital Economy*. Duke University Press.

140 Sicat, M., Xu, A., Mehetaj, E., Ferrantino, M., & Chemutai, V. (2020). *Op. cit.*

141 Gurumurthy, A., Chami, N., & Alemany, C. (2019). *Op. cit.*

142 Raval, N. (2019). *Op. cit.*

はこの地域におけるインターネット接続性の向上だけでなく、インドやフィリピンといった主要なアウトソーシング市場における人件費の上昇にも起因している。¹⁴³

- より良い労働保護と労働条件を求めて組合を結成するプラットフォームワーカーに対するバックラッシュは、国や地域を超えた組織化を含む新鮮なアプローチの必要性を物語っている。

- ライドヘイリング ride-hailing やライドシェアのアプリケーションは、グローバルでもローカルでも、結局は「既存の不当な制度や社会インフラ」を強化することになりかねない¹⁴⁴ 「プラットフォームは労働者がすでに経験している力の不平等構造に依存し、これを増幅する。」¹⁴⁵

- ジェンダー、階級、カーストは、女性顧客の性的・身体的安全など、プラットフォームを介した仲介をしながら、ドライバーと顧客がどのように関わり合うかに影響を与える。

¹⁴⁶

- 家事労働のプラットフォーム化もまた、重要な研究分野である。研究は、「ギグ・エコノミーが誘発した課題、職業上の課題、ギグ・エコノミー性によって悪化した職業上の課題」を見出している。¹⁴⁷

無報酬のケアワークとインターネット

- インターネットへのアクセスやデジタル化は、女性やその他の疎外されたグループの人々にとって一夜にして変わるものではない。プラットフォーム型の仕事によって「女性には柔軟性、短い労働時間、より良い賃金が提供されたが、実際には家事責任から解放されたわけではない。」¹⁴⁸

143 Iyer, N., Achieng, G., Borokini, F., & Ludger, U. (2021). Automated Imperialism, Expansionist Dreams: Exploring Digital Extractivism in Africa. Pollicy. <https://archive.pollicy.org>

144 Kumar, N., JafariNaimi, N., & Bin Morshed, M. (2018). Uber in Bangladesh: The Tangled Web of Mobility and Justice. Proceedings of the ACM Conference on Human-Computer Interaction, 2. <https://static1.squarespace.com/static/59f549a3b7411c-736b42936a/t/5ba78e9ee4966bf0ebec5f1d/1537707679075/UberinBD.pdf>

145 Rathi, A., & Tandon, A. (2021). Op. cit.

146 Gupta, A. (2020). Ladies 'Log': Women's Safety and Risk Transfer in Ridehailing. CIS India. <https://cis-india.org/raw/anushree-gupta-la-dies-log-women-safety-risk-transfer-ridehailing>

147 Lesala Khethisa, B., Tsibolane, P., & Van Belle, J. (2020). Surviving the Gig Economy in the Global South: How Cape Town Domestic Workers Cope. Paper presented at the IFIP Joint Working Conference on the Future of Digital Work: The Challenge of Inequality, 10-11 December, Hyderabad, India. <https://hal.inria.fr/hal-03450706>

148 Ibid.

- 有給と無給のケアワークは主に女性によって行われているが、「有給と無給のケアワークの関係については、これまで政策的な議論がなされてこなかった。」¹⁴⁹
- デジタル技術によってもたらされる柔軟性は、子供や高齢者のための不十分なケア施設を含むアンペイドケアワークの管理における課題が並行して解決されない場合、変革にはつながらない。

セックスワークとインターネット

セックスワーク（インターネット上、インターネットを介したものの、インターネット外）は、アクセス、表現、快楽、暴力、監視、データ化など、本白書で取り上げる多くのトピックの縮図である。デジタル経済の一部としてセックスワークを理解し、認識し、非犯罪化し、支援することは、セックスワーカーがインターネットの内外で直面する多くの課題に取り組むために重要であるため、セックスワークとインターネットをデジタル経済という大きなテーマで位置づけることは、慎重な判断が必要であった。

- セックス・ワーカーによって利用されるウェブサイトは「セックス・ワーカーを公共の場所から『一掃』するために用いられる戦術と似ている」と例えられる方法で閉鎖されており¹⁵⁰、テクノロジーへのアクセスに対するこうした制限は単なる検閲ではなく、「構造的暴力の一形態」でもある。¹⁵¹
- プラットフォームのような企業体が、独立して、同意の上で、倫理的に制作されたポルノを含む性的表現を制限または禁止するようなコミュニティの基準を任意に設定するとき、それは、民営化プラットフォームの市場主導型の建築インフラと整合する、企業による、衛生的で編集されたセクシュアリティのバージョンを提示するための行為者の自己検閲につながりうる。¹⁵²
- セックス・ワーカーは、生計がインターネットに依存している場合、インターネットの遮断は結局、毎月の収入を減らすか完全に抑制することになると述べている。¹⁵³

149 Ariunzaya, A., & Munkhmandakh, M. (2019). Women and the future of work in Mongolia. Friedrich Ebert Stiftung. <https://asia.fes.de/news/women-and-the-future-of-work-in-mongolia>

150 Blunt, D., & Wolf, A. (2020). Erased: The Impact of FOSTA-SESTA and the Removal of Backpage. Hacking//Hustling. <https://hackinghus-tling.org/erased-the-impact-of-fosta-sesta-2020>

151 Ibid.

152 Stardust, Z. (2018). Safe for Work: Feminist Porn, Corporate Regulation and Community Standards. In C. Dale & R. Overell (Eds.), *Orienting Feminism: Media, Activism and Cultural Representation*. Palgrave Macmillan.

153 Perera, S., & Ibrahim, Z. (2021). Somewhere Only We Know: Gender, sexualities, and sexual behaviour on the internet in Sri Lanka. Association for Progressive Communications. <https://erotics.apc.org/wp-content/uploads/2021/03/Somewhere-only-We-Know-Online.pdf>

-COVID-19は、セックス・ワーカーが生活のためにインターネットをどのように使うかにも影響を与えており、家に閉じこもっていると、特に家族が彼女の職業に気づいていない場合に、顧客とのコミュニケーションに困難が生じる[154]。¹⁵⁴

-デジタル化は、デバイスやインターネットにアクセスできるセックスワーカーが、より安全でより多くのセックスワークの方法を見つけるのに確かに役立っているが、特にセックスワークの収入を得るための勧誘や生計が犯罪化されている場合、経済への可視的参加にはリスクが伴う可能性がある。このことは、セックスワーカーにとって、アクセス、データ、監視、デジタル経済が複雑に横断していること、そしてなぜ彼らの声、懸念、ニーズが政策決定の中心にある必要があるのかを示している。¹⁵⁵

- また、セックスワーカーがこうした複雑な状況を乗り越えながらデジタル経済で活動するためには、デジタルの安全・安心に関するサポートが必要である。例えば、「無料のサーバーにウェブページを立ち上げ、コンテンツを作成し、常に無料で安全なツールの使用に重点を置く。」¹⁵⁶

- 「ハイテクにセックスワーカーの視点を取り入れることは、単にハイテクデザインに多くのセックスワーカーを参加させることではなく」、「倫理的デザイン、参加、アクセス、プライバシー、監視、暴力、新しい世界の再認識についての根本的な疑問」を提起している。¹⁵⁷

労働に関するフェミニストの未来

フェミニストのインターネット研究者は、デジタル経済の複雑さやニュアンスを引き出し、新自由主義資本主義のマクロ経済政策に疑問を呈しつつ、未来への道筋を打ち出している。本節では、それらの道筋のいくつかを簡単に概説する。

- デジタル経済に対するフェミニストのアプローチは、「テクノロジーをさらなる私有化、利益、企業支配へと駆り立てる資本主義の論理を問いただす」一方で、「協力、連帯、コ

154 Radhakrishnan, R. (2020). Op. cit.

155 Kovacs, A. (2020, 28 May). When our bodies become data, where does that leave us? Deep Dives. <https://deepdives.in/when-our-bod-ies-become-data-where-does-that-leave-us-906674f6a969>

156 Derechos Digitales. (2017). Latin America in a Glimpse: Gender, Feminism and the Internet in Latin America. Derechos Digitales & APC. https://www.derechosdigitales.org/wp-content/uploads/GlImpse2017_eng.pdf

157 Stardust, Z., Garcia, G., & Egwuatu, C. (2020, 16 December). What can tech learn from sex workers? Berkman Klein Center. <https://medi-um.com/berkman-klein-center/what-can-tech-learn-from-sex-workers-8e0100f0b4b9>

モンズ、環境維持、開放性の原則に根ざした経済力の代替形態」を建設的に創造することにコミットしている。¹⁵⁸

- テクノロジーの環境的影響は、フェミニスト・デジタル経済学の領域を研究し、拡大する上で重要なトピックである。¹⁵⁹

- 「エネルギー消費を減らし、再生可能エネルギーへの移行を促進するという ICT の有益な効果は、デジタル経済への変化による直接的な有害な効果と比較検討される必要がある。」¹⁶⁰

- 脱成長のアプローチが進むべき道かもしれないし、「そのすべての無限の課題をもって、脱成長は技術者、市民社会、学界、政府、企業にとって、抽出主義 extractivist の論理から離れ、持続可能なデジタル経済を形成するための具体的な刺激となりうる。」¹⁶¹

- フェミニスト的な労働の未来とは、人々を再訓練したり、すでにある搾取的な構造に引き込むのではなく、協同組合のような経済組織の代替形態を探求し支持することである。

¹⁶²

¹⁵⁸ <https://feministinternet.org/en/principle/economy>

¹⁵⁹ Faith, B. (2018, 31 January). Op. cit.

¹⁶⁰ Peña, P. (2021). Bigger, more, better, faster: The ecological paradox of digital economies. In A. Finlay (Ed.), *Global Information Society Watch 2020: Technology, the environment and a sustainable world: Responses from the global South*. <https://giswatch.org/node/6245>

¹⁶¹ Ibid.

¹⁶² Gurumurthy, A. (2020). A Feminist Future of Work in the Post-Pandemic Moment. IT for Change & DAWN. <https://itforchange.net/a-femi-nist-future-of-work-in-the-post-covid-19-pandemic-moment>

インターネット政策とガバナンス空間におけるジェンダーとフェミニズム

「フェミニストや人権がこうした空間に関与することは、私たちの問題がこうした空間で周縁化され続けていることを示している。」

このセクションは、グローバルなインターネットガバナンスフォーラム（IGF）に焦点を当て、これまで議論されてきたテーマ分野——そしてそれらに対する横断的フェミニスト分析——がインターネット政策空間においてどのように出現してきたのか、その概要を説明するものである。このアウトラインは決して網羅的なものではなく、また、インターネットをガバナンスする政策が様々な利害関係者によって実際にどのようになされるかについて、IGFとの関連性が薄れ続けていることを認識しているものである。しかし、長年にわたってIGFの場でフェミニストや人権活動家が行ってきたアドボカシーを認め、具体的な問題がIGFでどのように議論されてきたかを把握し、インターネット政策やガバナンスの議論においてフェミニストのインターネット研究がどのように位置づけられるべきかを明らかにしようとするものである。

誰がインターネットを統治するのか？理想的には、人々のデジタル主権を中心に据えつつ、技術的、人権的、法的、学術的側面など、インターネットの多様でしばしば横断的な側面に対処できる幅広いアクターが必要である。しかし、本白書のテーマ別討議が示すように、インターネットは、プラットフォーム企業やその他の企業がインターネットの新自由主義的論理を推進し、政府は既存の法律を適用するとともに、インターネット利用者を保護するというよりも、反対意見の取り締まりや国家権力の強化に利用されることが多いインターネット特有の法律を導入して、多様でしばしばいきあたりばったりの方法で管理されているように思われる。

地政学的かつマルチステークホルダーによる様々な会合や組織、メカニズムがあり、市民社会関係者のためのスペースはますます少なくなり、国家と民間部門が権力と資源を固めつつあるとはいえ、市民社会関係者は、インターネットガバナンスについて議論、交渉、実行しようと試みている。しかし、フェミニストや人権がこうした空間に関与することは、私たちの問題がこうした空間で周縁化され続けていることを示している。また、インターネットガバナンスの場と政府や企業による政策決定（プラットフォーム企業のコンテンツモデレーションガイドラインなど）の間には顕著なギャップがあり、フェミニストや人権に基づくインターネット研究による提言の多くが有意義な形で実施されるためには、インターネットとそのガバナンスに対する国家と企業のヘゲモニーに異議を唱える必要があることが示されている。

インターネット・ガバナンスと政策決定へのフェミニストの関与は長い道のりを辿り¹⁶³、国、地域、世界レベルで、様々なフォーラムや空間で行われ続けている。¹⁶⁴ Gurumurthy は、1995年の北京における第4回国連女性会議、2000年のミレニアム宣言、2000年代初頭における情報社会に関する世界サミット（WSIS）の形成、長年にわたる開発のための様々なICT（ICTD）イニシアティブ、IGF、持続可能な開発のための2030アジェンダなどのこれらの関与を地図上に示している。開発分野全体と同様に、これらの歴史は、インターネットに関するフェミニストの分析が、女性のエンパワーメントという開発の枠組みの中にいかに取り込まれていったか、そして、ジェンダー正義と経済正義を同時に考慮するインターネットガバナンスへの包括的アプローチを通じて、これに取り組むフェミニストの継続的な活動についても示している。Gurumurthy は、インターネットガバナンスの場におけるフェミニストの活動は、監視とプライバシー、オンラインGBVにおける企業の説明責任、インターネット仲介者の責任などの問題を提起するなどの大きな進展をもたらしたが、残されたギャップと課題にも言及している。

Jensen は「フェミニストの観点からすると、（インターネットガバナンスの）機関は、IGFのような比較的オープンな設定からITU（国際電気通信連合）のような比較的閉鎖的なものまで、有意義な関与の可能性という点で著しい差がある」と指摘する。¹⁶⁵ IGFはインターネットガバナンスと政策に関心と期待を寄せる関係者が集まり、情報、知識、ベストプラクティスを共有してインターネット政策と政策提言について批判的議論を行うプラットフォームとなる。IGFの議事録の議論と成果は国家や他の参加者を拘束するものではないが、国、地域、世界レベルで政府、民間企業、市民社会、学術界からの幅広いアクターを巻き込む数少ないフォーラムの一つである（「IGFにおけるマルチステークホルダー主義がグローバルIT資本に依存する国々において新自由主義やその変異-本質的に対立的政治-に挑戦することを非常に難しくする」と指摘しているGurumurthyのようなフェミニスト批判にさらされている）。¹⁶⁶ この白書の目的では、Jensenが言及するようにその相対的な開放性、幅広いアクター、そして長年にわたってフェミニストとジェンダーの

163 Gurumurthy, A. (2017). A history of feminist engagement with development and digital technologies. Association for Progressive Communications.

<https://www.apc.org/en/pubs/history-feminist-engagement-development-and-digital-technologies>; Jensen, H. (2013). Whose internet is it anyway? Shaping the internet -- feminist voices in governance decision-making. In A. Finlay (Ed.), Global Information Society Watch 2013: Women's rights, gender and ICTs. <https://giswatch.org/institutional-overview/womens-rights-gender/whose-internet-it-anyway-shaping-internet-feminist-voice>

164 <https://genderit.org/tags/internet-governance>

165 Jensen, H. (2013). Op. cit.

166 Gurumurthy, A. (2017). Op. cit.

関与がこの空間でどのように繰り広げられたかについての確固たる文書から、グローバルレベルでの IGF に焦点が当てられるだろう。

2020 年、ジェンダーとアクセスに関する IGF ベストプラクティスフォーラムによって行われた総括作業¹⁶⁷は、IGF でジェンダーがどのように議論されているのかについての進捗とギャップを把握しようとするものであった。図 24-27 は、その調査結果のスナップショットである。

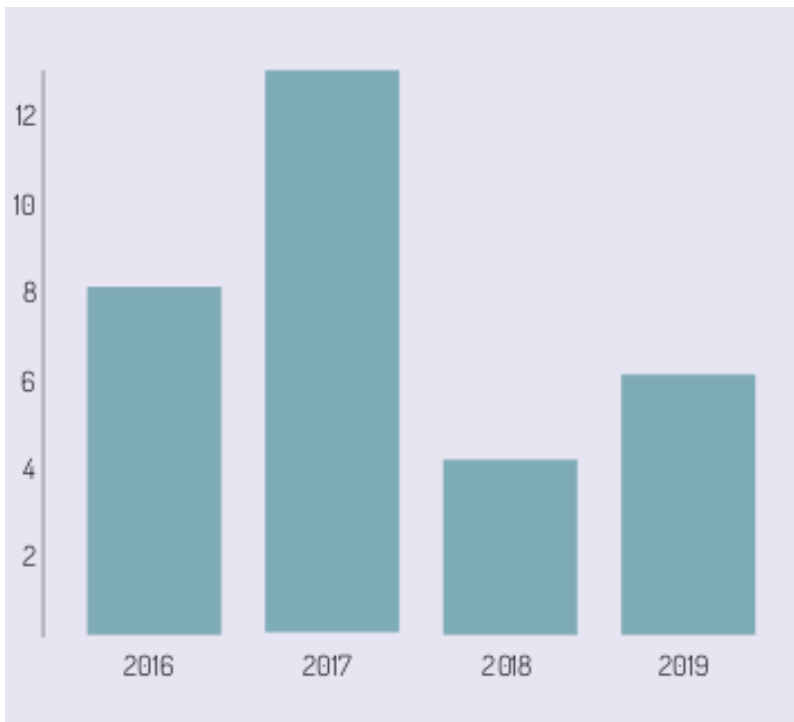


図 24：ジェンダーをメインピックとして議論した IGF セッションの数（2016～2019 年）

167 Best Practice Forum on Gender and Access. (2020). Op. cit.

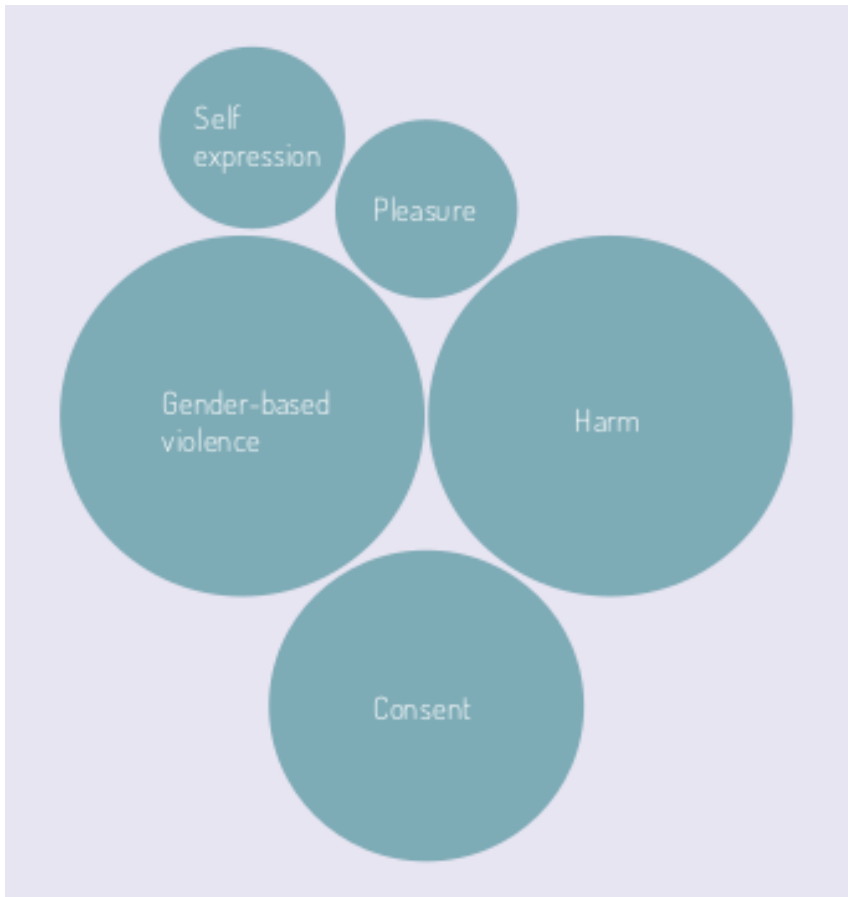


図 25: メイントピックとしてジェンダーを取り上げた IGF セッションで議論されたサブトピック

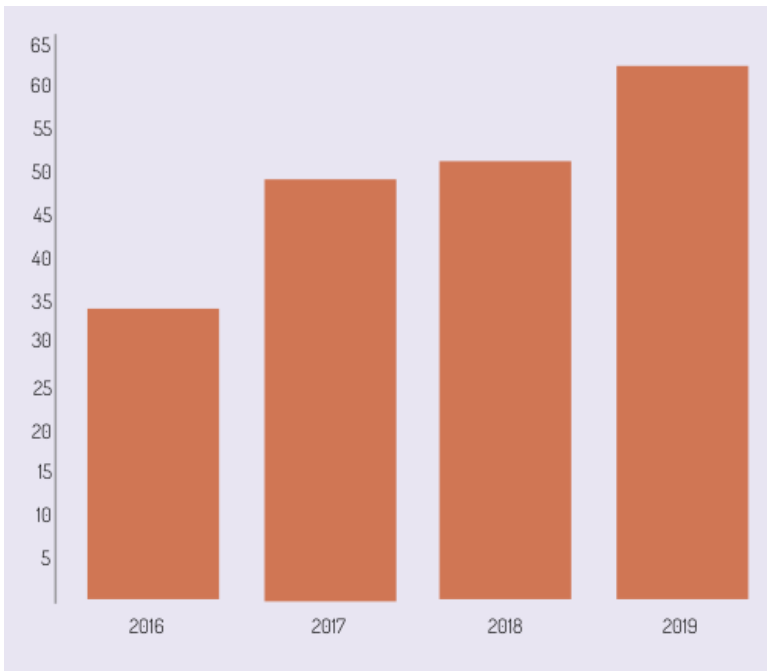


図 26: メイントピックとしてではなく、ジェンダーを統合した IGF セッションの数（2016 年～2019 年）

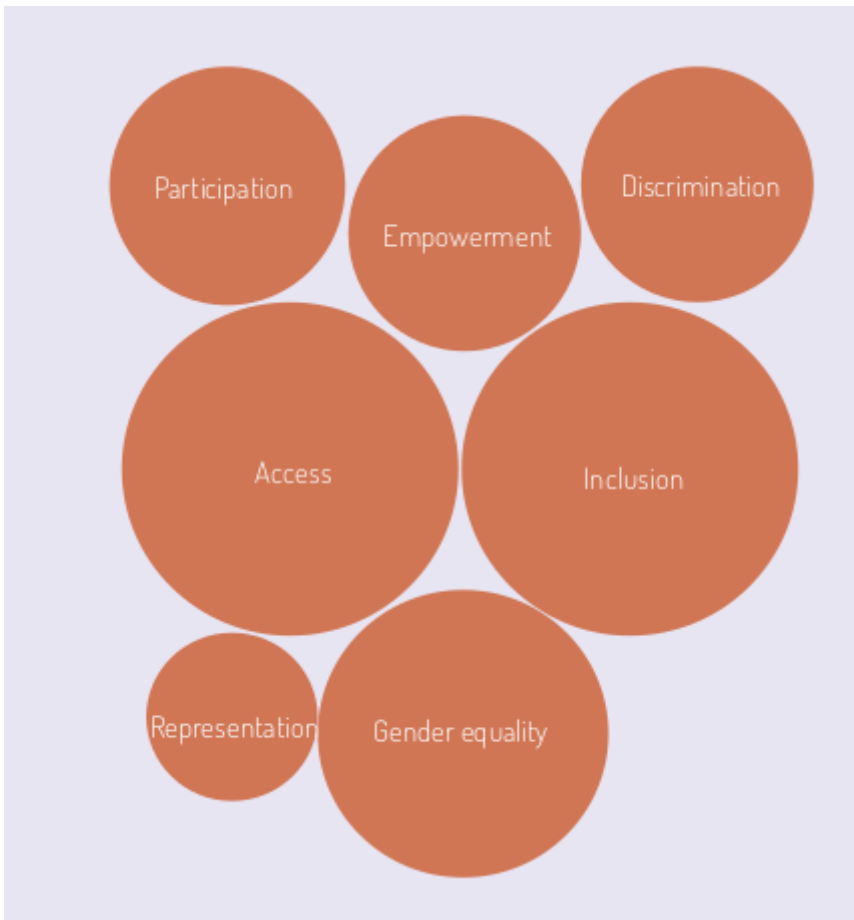


図 27: 上記セッションでジェンダーが議論された方法

ベストプラクティスフォーラムの総括作業で出てきた提言の概要は以下の通りである。

- IGFでは、ジェンダーのトピックが主流となるべきである。ジェンダーに焦点を当てたセッションも必要だが、その他のセッションも、議論の内容やスピーカー、参加者の多様性において、（ジェンダーとそれ以外に関する）横断的であることが必要である。
- IGFにおけるジェンダーに関する議論は、この政策空間からより包括的でダイナミックな思考と勧告を生み出すために、暴力や被害のトピックを超えて拡大し、表現、喜び、同意なども統合する必要がある。IGFにおけるジェンダーの多様性と、それに対する進捗を測定するためのより細分化されたデータが必要である。IGFにおける女性やジェンダー的に多様な人々の参加は、形骸化されるべきではなく、彼らがインターネットガバナンスプロセスに有意義に関与するためのスペース、リソース、持続可能なプランが必要である。

IGFでの議論にジェンダーを統合することへの関心とコミットメントが高まっていることをこの総括作業から学ぶことは勇気づけられることである。しかしながら、同時期のこの白書のためにマッピングされたフェミニストのインターネット研究は、IGFがジェンダーの議論においてより野心的で複雑なものになる余地があることを示している。データ、データ化、AI、デジタル経済に関するフェミニストのインターネット研究は特に豊富であり、本白書が示したように、これら全てのテーマはジェンダーとアクセスをめぐる議論と横断し、ニュアンスを加えているのである。また、暴力や被害についての議論を超えて、この白書から生まれた結論や提言のいくつかと一致する提言も高く評価できる。

もう一つの考察は、ここに掲載したフェミニスト・インターネット研究で指摘された課題や政策の欠点は、インターネットガバナンスの場でも提起されているが、IGFから国や地方レベルの政策立案者への効果的なフィードバックループがないように思われ、また研究とマルチステークホルダー IGF 議論の両方から生まれた発見や提言を実施する説明責任メカニズムや政治的意志もない。このギャップを解決する責任は政策立案者にあるが、市民社会と学術界は、フェミニストインターネット研究からの発見と提言が、インターネットガバナンスの場を超えて、条約機関のレビュー（例えば、女性差別撤廃条約、経済社会文化権国際規約、障害者の権利に関する条約など）のような他のフォーラムにも出されるようにする機会をここで得たのである。国連委員会、国際人口開発会議、北京宣言と行動綱領、持続可能な開発に関する 2030 アジェンダ、ビジネスと人権に関する拘束力のある条約をめぐるアドボカシーなど。

フェミニストインターネットリサーチにおける、そしてそれを通しての更なる進歩を達成するための提言

この白書で得られた結論と、アクセス、表現、喜び、オンライン GBV、監視、データ（化）、AI、デジタル経済に関するフェミニストインターネット研究のテーマ別レビューに基づいて、以下は、フェミニストインターネット研究において、またそれを通じてさらなる進歩を達成する方法についての提言である。

これはまた、インターネットと開発に対してフェミニスト的なアプローチを採りたいと考えている人たちの出発点ともなりうるものである。

さらなる研究

- 南半球の周縁化されたグループの人々について、また彼らによる、インターネットに関する彼らの経験、ニーズ、想像力を解き明かすフェミニスト研究をさらに進めること（人々がどのように抵抗や代替手段を構築し維持しているのかも含む）。
- フェミニストの自律的なインフラを含む、フェミニストの抵抗の場としてのアクセス、インフラ、デザインに取り組む研究、特にフェミニスト・アクションリサーチ。
- 「Free Basics」¹⁶⁸[168]のようなアクセスに関する新自由主義的資本主義的概念化の批判的分析、およびそれらがデジタル市民権にどのような影響を与えるか。
- 自由で自律的なインターネットの可能性を想像し創造する、アクセスやユニバーサル・アクセスに関するフェミニスト的な概念化。
- ジェンダーやセクシュアリティを超え、階級、カースト、人種、宗教、先住民などがどのように表現に影響を与え、影響を及ぼすかに関わる表現の横断的分析。
- インターネットにおける私たちの経験を、体現された人間的な経験として理解し、それが体現された人間的な結果をもたらすこと。
- 快楽についての議論、アクセス、表現、暴力の間の連続性の重要な部分としてそれを理解すること。性的表現に限らず、快楽についての議論には様々な入り口がある。
- 経済的不公正が、オンライン GBV、監視、データ化、性的表現の統制・制限にどのように影響し、推進するか。
- デジタル経済とオンライン GBV の間の関連性。
- インターネットに関連するフェミニストの正義の概念、およびオンラインとオフラインの両方における暴力への対処において国家の介入を要求する一方で、フェミニストが占めなければならない断層。

168 <https://en.wikipedia.org/wiki/Internet.org>

- インターネット上やインターネットを介して起こる権利侵害に対する、刑事司法を超えた包括的、地域密着的、集合的な介入であり、被害や正義の経済的、環境的、感情的、その他の側面を考慮したもの。
- 数値化された自己、デジタル労働への志向、ローカル・プラットフォーム経済などをめぐる物語と、グローバル・サウスにおけるその複雑さと奥行き。
- ジェンダーとデジタル経済、特にプラットフォーム化について、階級やカーストを含め、権力が強化され分配される様々な方法を考慮した研究。
- インターネットアクセスと女性のエンパワーメントに関する国家と開発の言説を批判的に分析する、インターネット遮断のジェンダー的影響に関する考察。
- 同意に関する集団的、地域的、ノンリニアな概念化と実践。
- フェミニスト・インターネット研究の構築と普及の方法。
- 研究者、活動家、その他の市民社会の関係者は、フェミニスト・インターネット問題がインターネット政策とガバナンスの場でどのように提起され議論されているか、またそれらが政策に統合されているか、どのように統合されているかを追跡する必要がある。
- 研究データ政策は、匿名化されたデータセットが、フェミニストや脱植民地化の分析の枠組みを含めて、さらなる研究や分析を望む人々のために公開されることを可能にしなければならない。
- 研究者が、研究対象者のケアと福利を中心としたフェミニスト的研究方法論を設計し、完全に実施するために、十分な資源を利用できるようにしなければならない。また、研究者がフォローアップを行い、研究の一部であるコミュニティに対して説明責任を果たすことができることを保証する必要がある。
- フェミニスト・インターネット研究は、政策決定者や一般市民とのコミュニケーションが現地語で行われた方が効果的であるような国の状況に合わせて、現地語への翻訳や現地語での制作が行われなければならない。これはまた、インターネットへのフェミニスト的アプローチに関する知識の創造と共有に、より多くのローカルかつ草の根のグループが関与し、参加することを奨励するスペースを開くだろう。
- フェミニスト・インターネット研究は、様々な接続レベル、デバイス、能力でアクセスできるオープンアクセス形式で出版され、より簡単に参照できるよう、引用に関する明確なガイダンス（出版物の詳細に優先引用を追加するなど）を伴わなければならない。
- インターネット政策空間は、ジェンダーと横断性に関するより強固で複雑な議論と成果を持たなければならない、これらの空間における利害関係者の代表と同様に議論にジェンダーを組み込むことが形骸化されず、代わりに長期的、持続的かつ十分にリソースのある方法で実施されることを保証すること。

資金調達の優先順位

- 特に、労働者、LGBTIQ+の人々、カースト、民族性、宗教、先住性などに基づくマイノリティの闘いを中心に組織されたコレクティブに継続的に資金を供給し、フェミニストのインターネットリサーチの形成や旅の支援を行う必要がある。
- 特に、治外法権の問題や多国間説明責任メカニズムの推進に限らず、運動間、地域間、国境を越えた研究と連帯の構築に資源を提供し促進することが必要である。
- 研究者がトピックや参加コミュニティ、アクション・リサーチ作業への関与を続け、フェミニストの倫理的配慮を行使し、フェミニストのインターネット・リサーチの利点についてより強力な証拠固めをすることができるように、フェミニストのインターネット・リサーチには長期の持続性が必要である。

=====

付録 1:

REPOSITORY OF RESEARCH ABOUT THE INTERNET USING FEMINIST AND GENDER FRAMEWORKS
(2016-2021)

<https://docs.google.com/spreadsheets/d/164q60bMKjXpsajrB4l62u14J-MAqa6s3DouvUWZNkAnY/edit?usp=sharing>